

学校法人千葉学園  
千葉商科大学／  
千葉商科大学附属高等学校

---

事業報告書

2025年度

---

# Trust

## ～千葉学園が紡いでいく信頼のストーリー～

学校法人千葉学園の使命は、高い倫理観を持ち、社会の発展に資する人材を育成することです。

本書では、人材の輩出を通じて本学園が創出する社会的価値や、

これからの社会において求められる学園のあり方について、

ステークホルダーの皆さまにお伝えすることを目的としています。

社会・経済環境が急速かつグローバルに変化するなか、時代の動きを捉えて教育・研究を推進し、

学園全体として持続的に成長することにより、広く社会からの「Trust」を築いていきます。

### 主なステークホルダー

学生・生徒 保護者 卒業生・修了生 教職員 地域 企業 連携機関・大学



## Contents

### 第1章 千葉学園の意志

- 3 学校法人千葉学園の概要
- 4 社会の変化に応え、価値を創造する人材の育成
- 5 学校法人千葉学園の沿革
- 7 2028年 千葉商科大学「創立100周年」に向けて
- 9 学長メッセージ
- 10 校長メッセージ

### 第2章 千葉学園の価値と中期経営計画

- 11 千葉学園の価値創造プロセス
- 13 数字で見る千葉学園の資本
- 15 重要課題（マテリアリティ）抽出とそのプロセス
- 17 千葉学園の中期経営計画について  
変化し続ける社会で役立つ実学教育を
- 19 第3期中期経営計画（2024～2029年度）
- 23 学生に関する主要指標

### 第3章 事業活動の報告

- 25 [教育]
- 35 [研究]
- 37 [社会連携]
- 39 [キャンパス整備]

### 第4章 組織・ガバナンス

- 41 組織概要
- 42 ガバナンス・内部統制
- 45 学校法人千葉学園 役員・評議員一覧

### 第5章 財務状況の報告

- 47 財務情報
- 51 寄付金事業

学校法人千葉学園  
千葉商科大学／千葉商科大学附属高等学校  
事業報告書 2025

# 学校法人千葉学園の概要

学校法人千葉学園は、大学創設者・遠藤隆吉が掲げた「高い倫理観を持つ社会のリーダー(治道家)の育成」という教育理念、そして高校創設者・森志久馬の「将来社会の要請に応えうる人間形成」という建学の精神に基づき、独自の教育手法による実学教育と、社会課題の解決をめざす実践教育を充実・強化させることを通じて、「社会が必要とする学園」であり続けることをめざしています。

## 建学の精神

### 千葉商科大学

本学の建学の精神は、文学博士遠藤隆吉が1928(昭和3)年2月に創立した巣鴨高等商業学校の建学の趣旨をその母体としている。創立にあたり遠藤隆吉は、「天道の自ら至るを恐れ、人倫に従い、人類を一視して有用の学術を修め、質実の気風を養い、天職を完うする」とする「建学の趣旨」を述べている。年長者には常に礼を忘れず、人間として己の行うべき道を外れぬよう自らを律し、学問は自分とともに社会の為になるべきものであることを認識して精励する。堅実な気風で、困難を克服する旺盛な精神をもって自己の向上と社会の発展に貢献することにある。そのための知恵を「有用の学術」すなわち「実学」に求めたのである。

また、遠藤隆吉の教育の理念は、高い理想のもとに現実の天職を完うする人物、総合的視点から個別科学を見ることのできる人物、すなわち「治道家」を育成することにある。この理念を受け継ぎ、実社会に役立つ学問である「実学」を通して新しい時代の治道家を育成することが本学の使命である。

### 千葉商科大学附属高等学校

創設者 森志久馬は、「実学実践学習の訓育を施し、附属高校生としての素養を身につけ、周囲の情勢におもねることなく常に中道を歩み、将来社会の要請に応えうる質実にして有為な人材を育成する。」ことをめざして1951(昭和26)年に本校を創立した。



創設者 文学博士  
遠藤 隆吉



創設者 法学博士  
森 志久馬

## ■ 設置する学校・学部・学科・研究科等 (2026年5月1日現在)

学校名	学部等		
千葉商科大学	学部	基盤教育機構	
		商経学部	商学科 経済学科* 経営学科
		政策情報学部	政策情報学科*
		総合政策学部	経済学科 政策情報学科
		サービス創造学部	サービス創造学科
		人間社会学部	人間社会学科
		国際教養学部	国際教養学科*
		大学院	博士課程 政策研究科 修士課程 商学研究科 専門職学位課程 会計ファイナンス研究科
	研究機関	総合研究センター	経済研究所
			会計教育研究所
			遠藤隆吉研究所
			サステナビリティ研究所
			中小企業経営研究所
	千葉商科大学附属高等学校	全日制課程	普通科 商業科

※2025年4月1日 総合政策学部経済学科、総合政策学部政策情報学科を開設。  
商経学部経済学科、政策情報学部政策情報学科、国際教養学部国際教養学科の募集を停止。

# 社会の変化に応え、価値を創造する人材の育成

急速に変化する経済・社会環境の中で、社会課題に主体的に向き合い、持続可能な社会の実現に貢献できる人材の育成を、本学園の教育の目的としています。大学・大学院では専門性と高い倫理観を備えた人材を育成するとともに、附属高校では建学の精神に基づく人間形成を重視し、自立した人間性を育てています。本学園は、高校から大学・大学院へと連なる一貫した教育を通じて、社会の変化に応える価値創造をめざしています。

## ■ 大学

### 商経学部

劇的に変化する経済や社会に対して、柔軟に対応し、高い倫理観を持って企業活動を変革できる人材、「ビジネスプロフェッショナル」人材を育成します。



### 総合政策学部

社会の多様な課題について考察するとともに、具体的な解決策を導く力をもつ人材を育成します。



### サービス創造学部

学問・企業・活動の視点から学ぶ「3つの学び」により、新たなサービスを発想し、実現する力を養います。



### 人間社会学部

社会や地域、企業等の課題を SDGs の視点で考え、サステナブル(持続可能)な社会を実現する人材を育成します。



## ■ 大学院

### 政策研究科

学問分野を超えた俯瞰的視点から政策立案を行う高度な研究者を育成します。

### 商学研究科

商学の新たな創造をめざす「商(あきない)学」を探究する研究者および高度職業人を養成します。

### 会計ファイナンス研究科

「会計・税務」と「ファイナンス」に精通した高い倫理観を身につけた高度専門職業人を育成します。

## ■ 附属高校

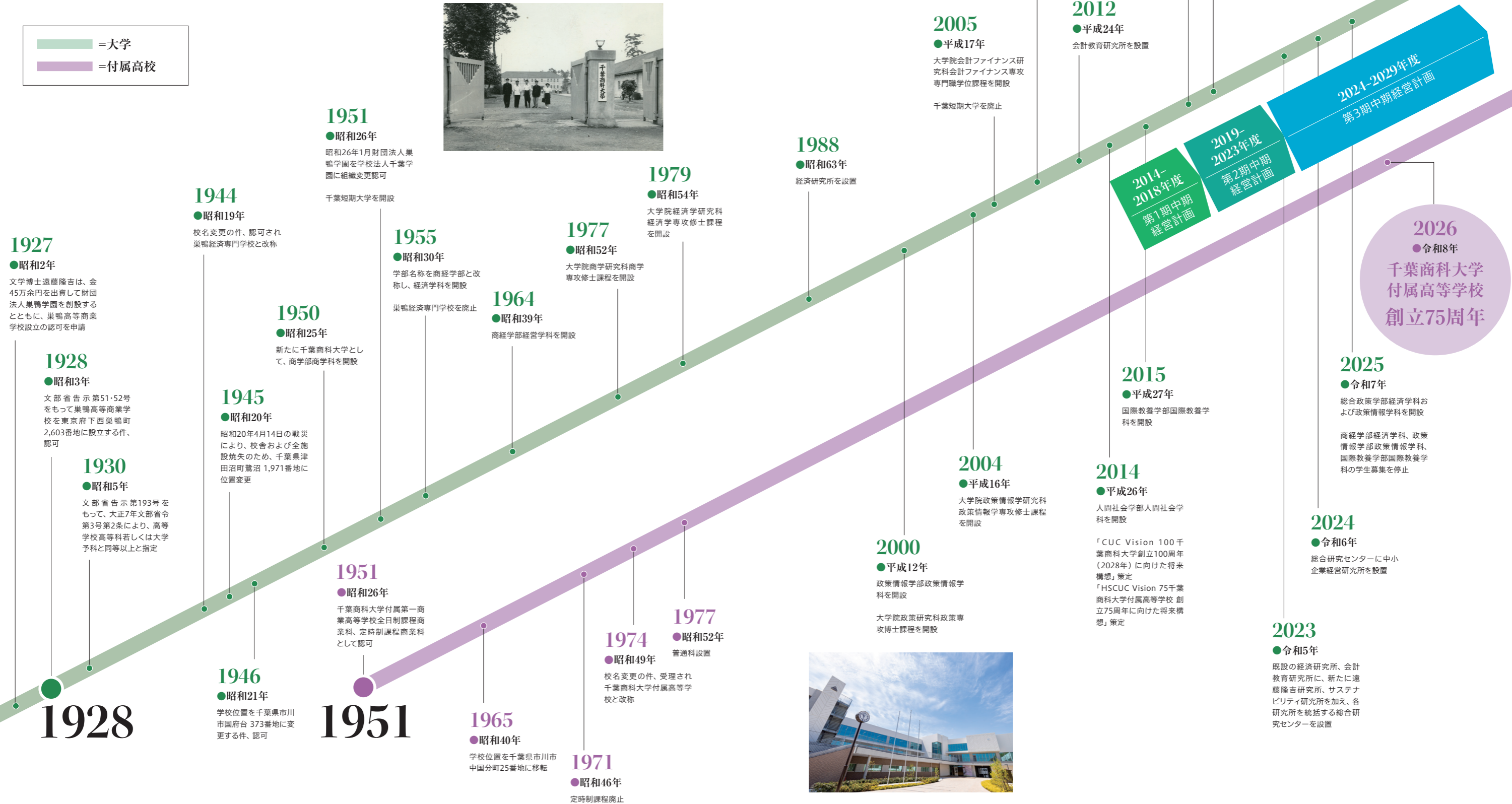
建学の精神に示された人間形成と、柏葉教育に語り継がれてきた「豊かな人間関係形成」を図るため、「自立する人間性豊かな高校生」を育成します。



# 学校法人千葉学園の沿革

1928(昭和3)年、巢鴨高等商業学校としてスタートした千葉商科大学は、2028(令和10)年に大学創立100周年、1951(昭和26)年に開校した千葉商科大学付属高等学校は、2026(令和8)年に創立75周年を迎えます。

■ =大学  
■ =付属高校



# 2028年 千葉商科大学 「創立100周年」に向けて

千葉商科大学は2028年に創立100周年を迎えます。大学はこの節目を、過去100年の歩みと「治道家」育成の成果を検証し、次の100年に向けた中長期ビジョンと価値創造の方向性を具体化する機会と位置づけています。

創立100周年の基本方針として「100年の歴史を振り返り、『知徳豊かな持続可能社会の実現』をめざし、関わる人すべてが一体となって未来へ向かう」ことを掲げ、学生、卒業生・修了生、教職員、地域社会など多様なステークホルダーとともに記念事業を推進しています。

これらの取り組みを通じて、教育理念である治道家精神を次世代へ継承するとともに、教育・研究・社会連携を通じた知の共創を一層進め、持続可能な社会の実現に貢献する大学としての価値向上を図っていきます。

## ■ スローガン

100年いきる良識を。

大学が育成する「治道家」に求められる高い倫理観と実践的な知を、「良識」という一語に凝縮しました。創立以来100年にわたり受け継がれてきた治道家精神を礎に、変化の激しい社会においても普遍的に求められる判断力と責任ある行動を備えた人材を育成するという、教育姿勢と将来へのコミットメントを示しています。

本スローガンは、教育カリキュラムや学生支援、地域・企業との連携など、大学のあらゆる活動における行動指針として位置づけており、次の100年を見据えた人材育成の方向性を内外のステークホルダーと共有していきます。

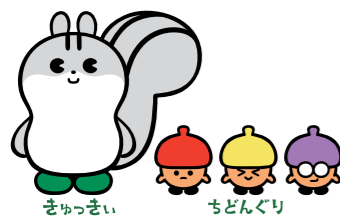
## ■ ログマーク



学生、卒業生・修了生、教職員からの公募により寄せられた77件の作品の中から、学内投票を経て選定しました。シンプルな線のみで構成されたデザインには、創立100周年という節目と、1928年から2028年へと連なる大学の歩みを未来へつなぐという思いを込めています。

記念式典や各種イベント、広報物などに幅広く展開し、ステークホルダーが100周年の意義を共有するための共通のシンボルとして活用していきます。

## ■ 大学公式キャラクター



創立100周年を契機に大学公式キャラクターを決定しました。学生から公募し寄せられた110件の中から選ばれたアイデアをもとに、学生、教職員、デザイナーが意見交換を重ねながらブラッシュアップを行いました。その結果、本学の理念や歴史を象徴するキャラクターとして完成しました。

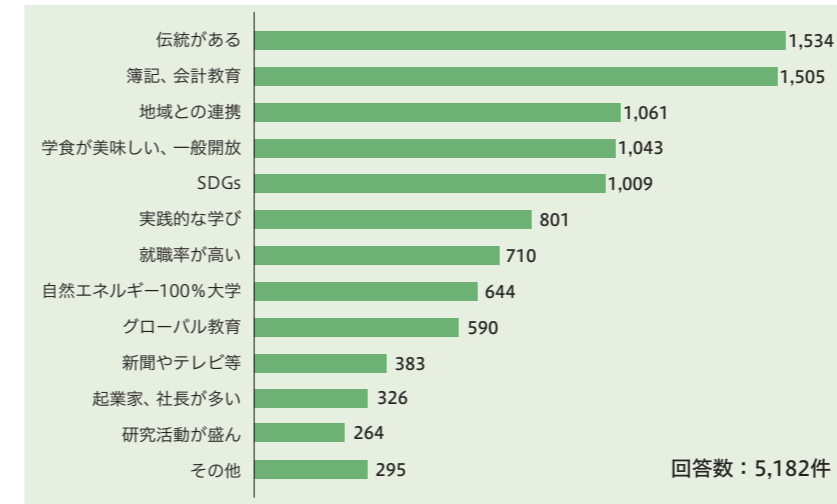
本取り組みは、学生の創造性や主体性を育むと同時に、大学ブランドへの共感と愛着を高める人的資本・社会関係資本の強化施策として位置づけています。

**【きゅっさい】**  
キャンパスに暮らす妖精。「ちどんぐり」を集め、社会をより良くするタネの成長を楽しみにしている。

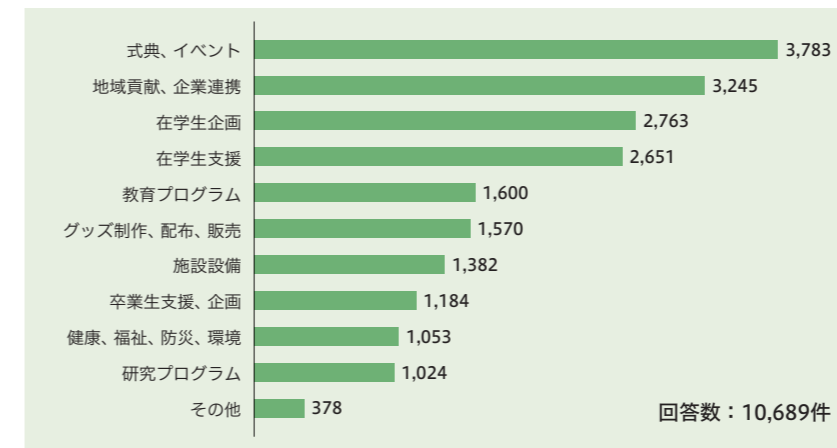
**【ちどんぐり】**  
学生一人ひとりの努力・優しさ・挑戦心から生まれる良識のタネ。本学の教育理念である「治道家」の育成をヒントにネーミング。

## ■ 100周年に向けて1万人超の声から見える本学像

### (1) 千葉商科大学に、どんなイメージをお持ちですか？（複数回答可）



### (2) 千葉商科大学創立100周年記念事業でやってほしいこと



創立100周年記念事業の推進にあたり、千葉商科大学に対する認識や将来への期待を把握することを目的として、在学生、卒業生・修了生、保護者、地域・企業・行政関係者、教職員を対象としたアンケートを2024年3月から2025年12月まで実施しました。本アンケートでは、大学のイメージ、創立100周年記念事業への期待、今後の大学に求められる役割などについて幅広く意見を収集し、10,689件の回答を得ました。

収集したデータは、創立100周年記念事業の企画立案に加え、教育内容の充実や学生支援、地域・企業との連携強化など、今後の大学運営および中長期的な価値創造の方向性を検討するための重要なエビデンスとして活用していきます。

### 一部抜粋コメント

- 学食割引チケットの配布など在学生の経済的負担を軽減するための支援
- リベラルアーツを強化する教育カリキュラムの充実
- 在学生向けの留学支援プログラムの導入
- 新しい学生会館の建設
- 幅広い年齢層に対応した学習プログラムの提供
- 卒業生ネットワークの拡充
- 地域住民や卒業生も参加できる大規模なイベントの開催

## ■ 記念誌編纂だより『パンタライ』の発行



詳細は大学公式 Web サイトから

創立100周年記念誌の発刊に向け、2025年4月より、調査研究の進捗や関連情報を発信する記念誌編纂だより『パンタライ』を年2回発行しています。『パンタライ』では、大学の歴史的資産を体系的に整理・共有するとともに、教職員、卒業生・修了生、地域社会との知的交流を促進することで、大学の知的基盤の強化を図っています。

こうした継続的な情報発信を通じて、過去の蓄積を可視化し、次の100年に向けた教育・研究の深化や新たな価値創造の土台づくりにつなげていきます。

## Message from the president

### 学長メッセージ

## 学生に寄り添いながら 絶えず改革を続けていく

千葉商科大学 学長  
**宮崎 緑**  
Midori Miyazaki



### 学生の声に耳を傾け 大学を磨いていく

私が大学運営において大切にしているのは、学生に最も近いところにある課題や思いを丁寧にくみ取り、それを大学の改善や新しい取り組みに結びつけていくことです。そのため本学では、直接対話のできる学長トークインや茶話会などを通じて、学生や教職員が学長に気軽に提案できる仕組みを整えてきました。そこで寄せられる声は、大学生活の現実に根ざした、非常に具体的かつ解像度の高いものです。たとえば学生からは、毎月一定の料金を払うことで、学内に安心して荷物を置いておけるサブスクロッカーの導入や、食堂で使う容器を使い捨てからリユース型へ変更できないかといった提案がありました。一見すると小さな要望に見えるかもしれませんが、学びの場である学内をよりよくしていきたいという思いと、本学ならではの学びと関連した、持続可能で環境にやさしい社会にしていきたいという彼らの意識を感じます。

私は、こうした提案の一つひとつに、本学のこれからの考える大切なヒントが含まれていると感じています。大学側からの一方通行ではなく、学生とのやりとりをもとに形にしていく。その循環こそが、これからの大学に必要な姿ではないでしょうか。

### 学生を支える “逆ピラミッド型”の大学へ

学生の声を受けて具体的な改善を進めてきたもののひとつに、朝食の無償提供という取り組みがあります。

これは、「物価高の影響で、朝食代を支払うのが苦しい」「一人暮らしなので朝食をなかなか取れない」といった学生たちの切実な声から生まれたものです。大学生生活を充実させるためには、授業やカリキュラムだけでなく、毎日の生活を支える環境も非常に重要です。

また近年、学内でエシカルグッズやフェアトレード商品の販売に主体的に関わる学生たちの姿を見る機会が増えています。私は、そこに本学の教育の成果の一端を感じています。単に商品を売る、企画を運営するといったことにとどまらず、その背景にある社会課題や生産者へのまなざし、消費のあり方まで考えようとする学生が育っていると思えてならないからです。自分の選択が社会とつながっていることを理解し、よりよいあり方を模索しようとする姿勢は、まさに実学のひとつの形といえるのではないのでしょうか。本学が大切にしてきた学びが、こうした形で学生の行動や意識に表れていることを、私は大変心強く、うれしく感じています。

本学はあと2年で100周年を迎えます。その歩みを単なる節目として終わらせてはいけません。本学を形づくっているのは在学生だけではなく、卒業生もまた、本学との縁をもとに社会へと巣立ち、それぞれの人生を歩んでいる現在進行形の存在です。そうした人たちとのつながりを大切にし、それを次の世代へと受け渡していくこともまた、大学の重要な役割です。そして願わくば、千葉商科大学を卒業していく人には幸せな人生を歩んでほしい。多様なつながりを生かしながら、より大きな学びの共同体とすることが、100周年以降を見据えた我々の使命です。

## Message from the principal

### 校長メッセージ

## 生徒にも、教職員にも 「おもしろい学校」にしたい

千葉商科大学付属高等学校 校長  
**高井 宏章**  
Hiroaki Takai



### 自主性を軸にした 学校づくりが始まる

校長としての1年目を振り返ってみると、学校では毎日のようにさまざまなことが起こり、想像していた以上に忙しい1年でした。その中で一貫して意識してきたのは、生徒にとっても教職員にとっても「おもしろい学校」にしたいという核でした。おもしろい学校なら、それぞれに自分の居場所が見つかり、そこで過ごす時間も自ずと楽しいものになるはずで

ただ、おもしろい学校は、誰かに与えられるものや自然発生するものではありません。生徒も先生も「自分たちで学校をおもしろくする」という気持ちをもって初めて生まれるものだと考えています。生徒には「やりたいことがあれば提案してほしい」「できることはまずやってみよう」と伝え、生徒の話を聞く姿勢を大切にしてきました。実際、文化祭や学校行事では、生徒が責任をもって動く場面が増え、スマートフォンの活用も段階的に認めながら、自分たちでルールを考え、運用する経験へとつなげてきました。文化系の部活動であるビジネスラボの立ち上げも、その延長線上にあります。生徒の興味や関心を受け止め、新しい学びや居場所を広げていく、そうした一歩を、確かな手応えとともに踏み出せた1年だったと感じています。

### 実学を進化させる 新たな挑戦

生徒の未来を考えたとき、学校のあるべき姿は、生徒が夢中になれることに出会える場所であること、そし

て、それを自らの力で深めていける場所だと思えます。そのための大きな柱のひとつとして、2025年度に立ち上げたビジネスラボをさらに進化させる予定です。ビジネスラボは、簿記、金融、ITという3つの実践的な学びが得られる部活動として設立し、それまで部活動に入っていなかった生徒の新たな選択肢にもなりました。2026年度は新たにeスポーツを取り上げることを視野に入れていきます。eスポーツというと、「学校でゲームをするのか」と受け取られるかもしれませんが、それはeスポーツのほんの一面にすぎません。そもそも勝つためにはほかの競技と同様、時間をかけた練習が必要であり、戦略や努力、才能も欠かせません。そして何より、世界ではすでにeスポーツが大きな市場として急成長しており、ビジネス面から見ても十分に学ぶ価値がある分野なのです。本校ならではの商業教育の中で、その可能性をきちんと形にしていきたいと思っています。

また、スマートフォン使用のルールづくりも大きなテーマです。どう使えば学びに役立ち、学校生活がよりよくなるのか、生徒たち自身が考え、運用することが重要だと思っています。あわせて、学校の仕事の進め方についても、前例をそのまま守るのではなく、本当に必要なかどうかをひとつずつ見直していくつもりです。ただし、何でも変えればいいわけではありません。変えるべきことは変え、守るべきことは守る。その判断は、現場の教職員の皆さんと率直に話し合いながら進めていきます。生徒にとっても教職員にとっても「おもしろい学校」であること。それを大切にしながら、新しい時代の学びに本気で挑戦する学校をつくっていきます。

# 千葉学園の価値創造プロセス

社会全体に対する責任を果たすため、Purpose (存在意義=建学の精神) を基盤に、保有するあらゆる資産を活用しながら戦略的に事業を展開しています。

その活動の成果は、ステークホルダーに多様な価値をもたらすとともに、持続可能な社会の実現や地域社会の発展に貢献しています。



# 数字で見る千葉学園の資本

千葉学園が築き上げてきた多様な資本をもとに、事業や取り組みに応じて資本を有機的に組み合わせながら未来志向の実学・実践教育と持続可能な経営を通じて、継続的に社会的価値を創出していきます。

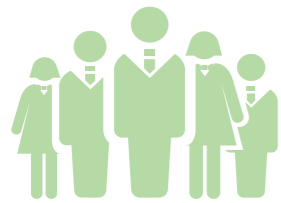
## 人的資本

(2026年5月1日現在)

教職員や学生・生徒が、ともに未来志向をもち、教育・研究・社会貢献に主体的に関わることを通じて、人的資本を高めています。

また、教職員は社会の変化に対応する教育を実現するために、教育の質保証体制を整備・強化しています。その一環として、FD(Faculty Development)および、管理運営の円滑化や教職員に必要な知識・技能の習得を目的としたSD(Staff Development)を定期的に行い、人的資本のさらなる活性化に努めています。

P.41



### ■教員数

大学 **431**人  
付属高校 **68**人

### ■学生・生徒数

大学・大学院 **6,548**人  
付属高校 **860**人

### ■職員数

大学 **165**人 付属高校 **8**人

### ■FD/SDの実施回数

FD **14**回 SD **6**回 (2025年度実績)

## 社会関係資本

企業、行政、地域社会など多岐にわたるステークホルダーと連携しながら、キャンパス内に留まらない実践的な学びの機会や社会課題の解決につながる公益活動、キャリア支援等を通じて、社会との信頼関係を構築していきます。



### ■CUCアライアンス企業

**1,124**社 (2026年3月現在)

### ■公式サポーター企業 (サービス創造学部)

**62**社 (2026年3月現在)

### ■海外協定校

**46**校 (2026年3月現在)

### ■国府台コンソーシアム

**9**教育機関・**1**医療機関

### ■大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム

千葉商科大学・和洋女子大学・東京科学大学・昭和学院短期大学・東京経営短期大学・環太平洋大学 国際経済経営学科、市川市、市川商工会議所

### ■CUC市民活動サポートプログラム (履修証明プログラム) 受講者数

(2025年度実績)  
**24**人 (部分履修含む)

## 財務資本

主な収入源である学生生徒等納付金収入だけでなく、多様な収入源の確保をめざすとともに、得られた資金を適切に配分することで持続可能な経営体制の構築を推進していきます。

P.47 ~ 52

### ■事業活動収入

**105億4,514**万円 (2025年度決算)

うち、学生生徒等納付金収入

**77億7,322**万円 (2025年度決算)

## 製造資本

自然豊かな環境と充実した教育施設・設備を有するキャンパスが学生・生徒の学びと成長を支える基盤になっています。

P.39 ~ 40

### ■キャンパス面積 (付属高校を含む)

**143,536**m<sup>2</sup>

(2026年5月1日現在)

## 知的資本

教育・研究活動を通じて蓄積された知識やノウハウ、研究成果、教育プログラム等を基に社会で役立つ実学教育を展開し、社会課題の解決に貢献する人材を輩出しています。



### ■組織

大学(学部・大学院) **4**学部 **6**学科 **3**研究科  
付属高校 普通科・商業科

### ■総合研究センター

**5**研究所

### ■付属図書館蔵書数

約**64**万冊

### ■付属高校図書室

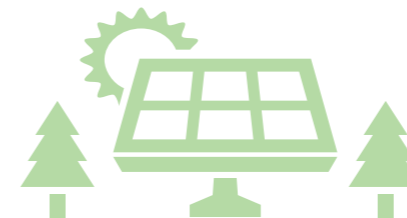
約**3.5**万冊

### ■実践型教育プログラム

**88**プログラム (2025年度実績)

## 自然資本

「自然エネルギー 100%大学」の取り組みに加え、2025年に新設した防災・エネルギーセンターを核として再生可能エネルギーの創出と災害時のエネルギーレジリエンス向上を通じ、自然資本の毀損回避及び持続的利用を推進しています。



### ■自然エネルギー率

電気 **113.0%** (2025年4月~2026年3月)

電気・ガス **87.6%** (2025年4月~2026年3月)

### ■再生可能エネルギー発電量

**3,926,035**kWh (2025年4月~2026年3月)

### ■太陽光発電パネル数

**13,500**枚 (メガソーラー野田発電所11,642枚、市川キャンパス1,668枚、大木戸ソーラー発電所190枚)

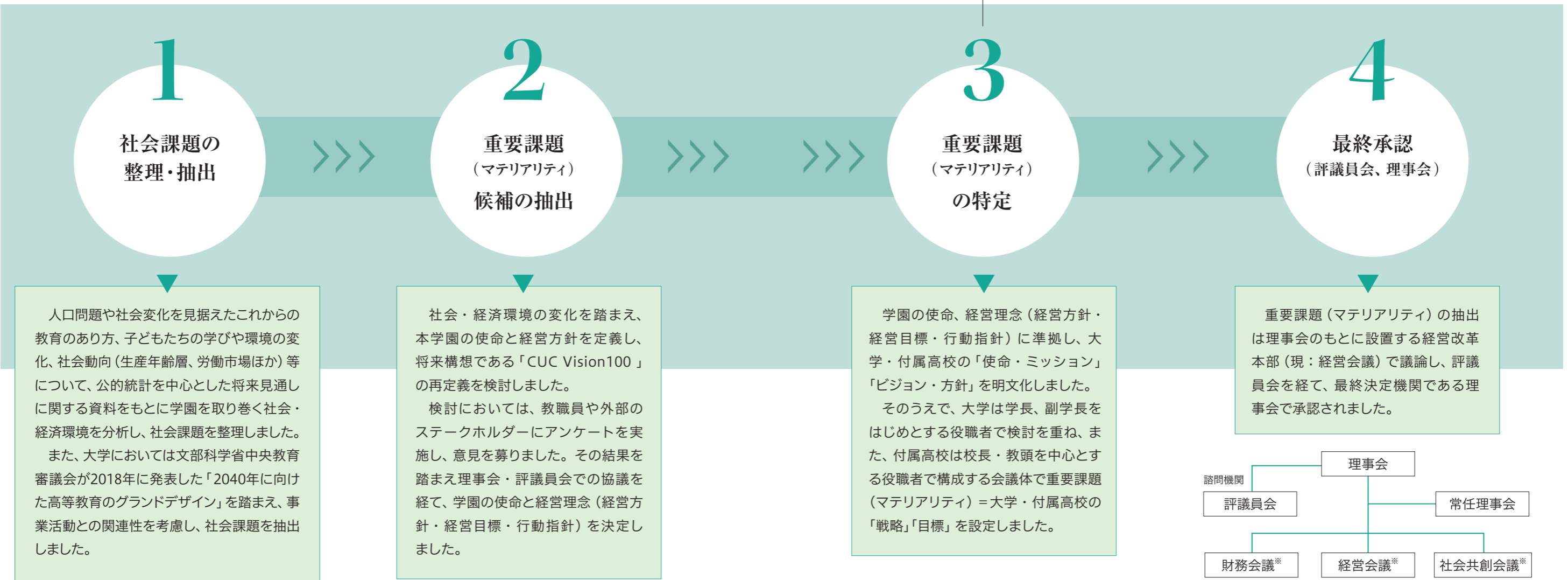
# 重要課題(マテリアリティ) 抽出とそのプロセス

千葉学園では2014年に策定した将来構想を念頭に中期経営計画を策定し、第1期(2014~2018年度)、第2期(2019~2023年度)とそれぞれの目標達成に向けて多数のアクションを行ってきました。

その間、人口減少をはじめとする社会問題は拡大し、今後もさまざまな社会的・経済的な課題が深刻化すると予想されています。

そのため、第3期中期経営計画(前期:2024~2026年度/後期:2027~2029年度)策定にあたっては、これまでの中期経営計画の振り返りに加え、学園を取り巻く社会・経済環境を分析したうえで、千葉商科大学・附属高校の重要課題(マテリアリティ)を抽出しました。

## 千葉学園のマテリアリティの抽出プロセス



### 特定したマテリアリティ

- [大学]**
- 教育分野**  
 学生が自身の可能性を最大限に伸ばし、成長を実感できる学修者本位の教育を行う
- 戦術【アクションプラン(一例)】
    - カリキュラムマップ、カリキュラムマトリクス、履修モデル等を活用した履修指導
    - 成績評価基準の明確化と適切なフィードバックの実施
    - 学修成果の可視化とそれに基づく学修指導・支援の実施
    - アドバンスト科目、他学科科目の履修促進による多様な学びの機会の提供
- 研究分野**  
 国内外から高い評価を受ける多様な実践的な研究を推進し、成果を教育と社会に還元する
- 戦術【アクションプラン(一例)】
    - 研究インテグリティの確保
    - 競争的研究費獲得支援
- 社会貢献分野**  
 社会の諸課題の解決に向けて多様なステークホルダーとの協働を深化発展させる
- 戦術【アクションプラン(一例)】
    - 「ちいキャンDAY(仮称)」の実施による新規顧客の開拓と学生の地域とのつながり力の強化
    - ダイバーシティの推進
- [附属高校]**
- 主体的に生きる力、未来を切り拓く創造力と、豊かな人間性を育むため、5つの力(確かな学力・人間力・グローバル力・イノベーション力・協働力)を身につけさせる。
  - グローバル公共性を創出できる力、将来の目標と展望を明確に示す力を備えた、指導力のある人材を育成する。
  - 多様なキャリアデザインを描かせ、地域・社会の発展に貢献する人材を育成する。

千葉学園の中期経営計画について

# 変化し続ける社会で役立つ実学教育を

千葉学園では、2014年度に大学全学部で定員割れという現実を重く受け止め、即座に経営計画を策定し、以降、大学の社会的評価の向上と持続的発展をめざして教育力のさらなる強化に取り組んでいます。

第1期中期経営計画では、経営基盤強化に向けて、その重要な評価指数(KPI)として「入学者確保」「離籍率(1年間)」「就職率」の3つを定め、結果、5年後には2つの指標を達成。続く第2期中期経営計画終了後もすべての指標を上回っており、教育力の確かな強化を実証しました。

第3期中期経営計画では、学園全体として教育力をさらに未来志向へと進化させるべく実行がスタートしています。



CUC Vision 100

HSCUC Vision 75/78

千葉商科大学創立100周年(2028年)・

千葉商科大学附属高校75周年(2026年)・78周年(2029年)に向けた将来構想

## 第1期中期経営計画

(2014～2018年度)

### 最重要指標と目標数値

	最重要指標	2018年度目標	結果
1	入学定員充足率	100.0% + α	110.7% (2019年度)
2	離籍率(1年間)	2.0%以下	4.1% (2018年度)
3	就職率	95.0%以上	98.2% (2019年3月卒)

### 重点戦略項目

#### 教育研究(大学)

- 1 入学戦略
- 2 教育改革・学生支援戦略
- 3 国際化戦略
- 4 キャリア支援戦略
- 5 地域連携・ネットワーク戦略
- 6 研究活動活性化戦略

#### 経営基盤(学園)

- 7 経営基盤強化戦略
- 8 学園キャンパス整備戦略

## 第2期中期経営計画

(2019～2023年度)

### 戦略目標「IST戦略」

教育力・研究力・学生支援体制を強化するための重点戦略

#### Information Technology

デジタルトランスフォーメーションに対応し、超スマート社会をリードする人材を育成するため、カリキュラム改革、教育環境の整備およびサポート体制の充実等を行います。

#### Sustainability

教育研究活動において、国連の持続可能な開発目標SDGs (Sustainable Development Goals)をリードし、持続可能な社会の構築に貢献します。

#### Trust

時代の変化に柔軟に対応した教育・研究を推進し、適切に成果を発信することで学生・生徒、保護者、企業および地域等に信頼される大学をめざします。

### 目標達成に向けて取り組む領域

- 教育・研究・社会連携
- 学生支援と環境整備
- 研究支援と環境整備
- 入試・キャリア
- 広報・ブランディング
- 経営基盤
- 付属高校
- 高大連携

## 第3期中期経営計画

(前期：2024～2026年度／後期：2027～2029年度)

### 学園の使命

高い倫理観を持ち、社会の発展に資する人材を育成する

### 学園の経営理念

経営方針 ～ Trust ～未来志向の実学・実践教育と安定的かつ強固な経営基盤を確立し、社会が必要とする学園へ

### 経営目標

- ① 未来志向の実学・実践教育
- ② 安定的かつ強固な経営基盤の確立
- ③ 社会が必要とする学園へ

### 行動指針

- 1: 未来志向で描く
- 2: 当事者意識と主体性をもつ
- 3: 多様性と独自性を力に変える

### 部門方針

- A 大学部門
- B 高校部門
- C 法人部門

P.21～22

P.19～22

# 第3期中期経営計画（2024～2029年度）

「社会が必要とする学園」であり続けるため、千葉学園としての経営方針および経営目標を再整備し、2024年度より第3期中期経営計画がスタートしました。本計画は、社会・経済環境が非常に速いスピードで変化する現代社会において、機動性を保ちながら環境変化に対し柔軟に対応することを目的とし、前期3年+後期3年のローリングプランとして実施します。



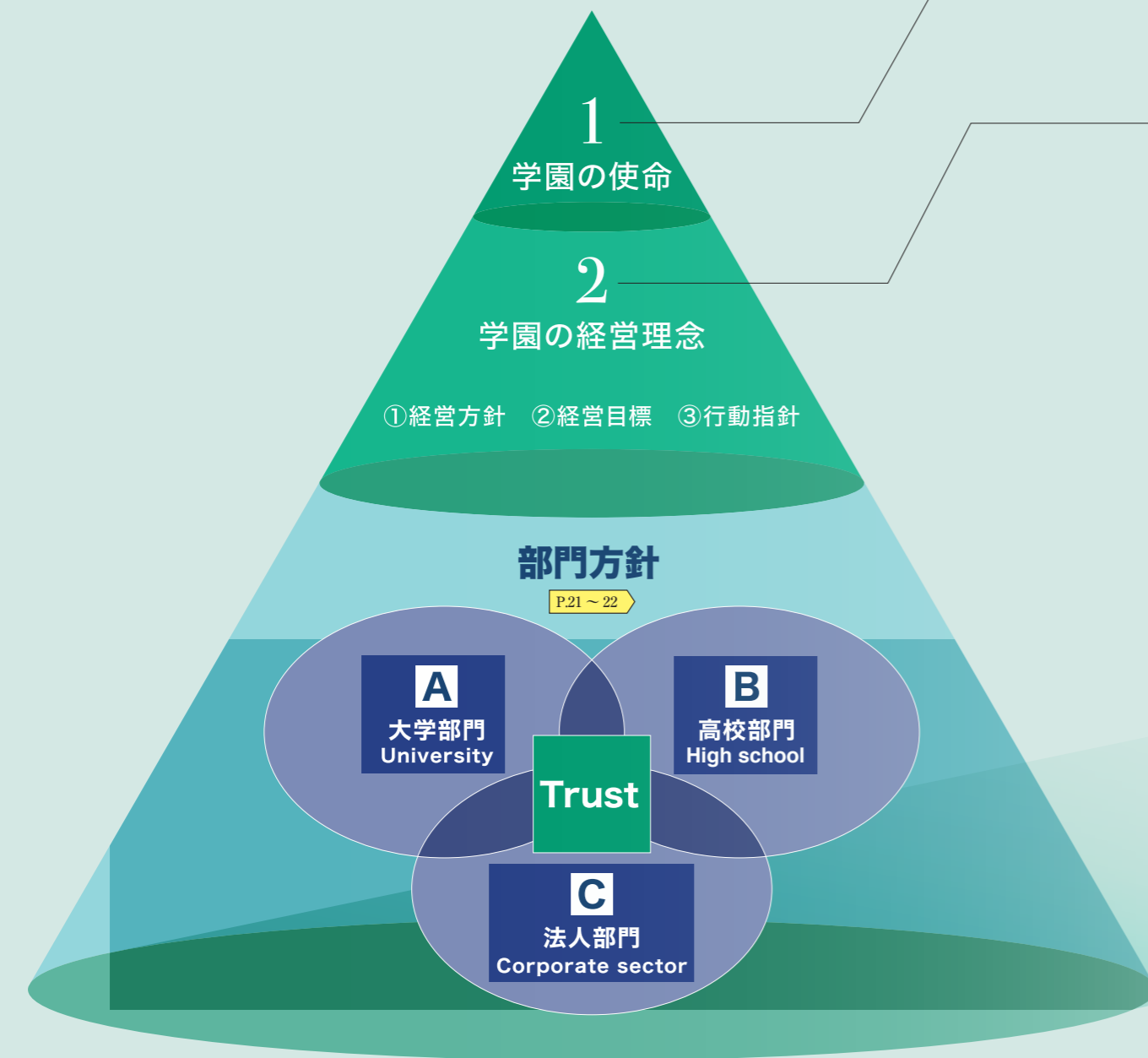
創設者 遠藤隆吉



「生々示」碑

碑の表文は、ギリシア語の「パンタライ（万物は流転する）」にはじまり、続いて「生々主義」の要旨を英文で刻んである。この碑に刻まれた「生々主義」こそが、世に「エンドウイズム」といわれ、学園の建学の趣旨である治道教育・実学尊重の原点となる。

## 理念体系と経営戦略



**1 学園の使命** 高い倫理観を持ち、社会の発展に資する人材を育成する

**2 学園の経営理念**

①経営方針

～ Trust ～ 未来志向の実学・実践教育と安定的かつ強固な経営基盤を確立し、社会が必要とする学園へ

社会・経済環境が急速かつグローバルに変化するなか、時代の動きを捉えて教育・研究を推進し、学園全体として持続的に成長することにより、広く社会から「Trust」を勝ち取り続けます。

②経営目標

経営方針を3つの項目に分割して達成

①未来志向の実学・実践教育

教育、研究、社会貢献により、生徒・学生のみならず多様なステークホルダーの満足度向上をめざします。

②安定的かつ強固な経営基盤の確立

強固な財務をベースとした、中長期的な教育・研究環境整備への投資力の確保をめざします。

③社会が必要とする学園へ

主に大学・高校部門が担う①と、法人部門が担う②の達成により、「社会が必要とする学園」をめざします。

③行動指針

1: 未来志向で描く

急速に変化する社会・経済環境のトレンドや技術の進歩と、我々の理想的な未来像を掛け合わせ、その達成のために行動します。

2: 当事者意識と主体性をもつ

教職員一人ひとりが学園の構成員としての自覚と責任をもち、自ら考えて行動します。

3: 多様性と独自性を力に変える

千葉学園に所属する多様な人材や考え方への相互理解を深め、協力しあうことで、新たなアイデアを生み出し、学園のイノベーションを促進します。

## 部門方針

### A 大学部門 University

#### ■使命・ミッション

本学は広く商業、経済、政策等に関する諸科学の総合的研究及び学理の応用のため専門の学芸を教授するとともに、これらの成果を広く社会に提供し社会の発展に寄与することを目的とし、高き人格識見と教養とを備え、特に経済界を始め、地域社会の発展に資する人材を育成し、もって社会の進運に貢献することを使命とする。(千葉商科大学 学則第1条)


#### ■ビジョン・方針

常に未来志向の実学教育と実践的な研究で社会に還元する大学  
常に変化する社会で成長し続けられる人を育てる「未来志向の実学教育」、社会の課題解決に寄与する「実践的な研究」。これらを社会に還元することで「社会から必要とされ続ける学園」をめざす。

#### ■戦略・目標

第3期中期経営計画を学部、大学院の再編、研究所の改革を成功に導くための6年間と考え、相互に関連する「教育」「研究」「社会貢献」の3つの分野でCUC Vision 100を念頭に置きながらゴールとプロセスを示す。  
 教育分野のゴール ▶ 学生が自身の可能性を最大限に伸ばし成長を実感できる学修者本位の教育を行う。  
 研究分野のゴール ▶ 国内外から高い評価を受ける多様で実践的な研究を推進し、成果を教育と社会に還元する。  
 社会貢献分野のゴール ▶ 社会の諸課題の解決に向けて多様なステークホルダーとの協働を深化発展させる。

### 戦術 (アクションプラン)

分野	教育	<p><b>教育</b> 学生が自らの可能性を伸ばし成長できる多様で質の高い教育機会・教育コンテンツの提供</p> <p><b>学修環境整備・学生支援</b> 学生が自らの可能性を伸ばし成長できる学修環境整備と学生支援体制の強化</p> <p><b>教学マネジメント・教育の質保証</b> 学生の成長を促進する仕組みの強化と持続的な教育改善の推進</p>	
	研究	<p><b>研究環境の整備、拡充</b> 持続的な研究環境体制の確立</p> <p><b>研究者に対する支援体制</b> 研究支援体制のさらなる拡充</p> <p><b>研究活動状況や研究成果の発信</b> 研究活動の活性化と研究成果の発信力強化</p>	
	社会貢献	<p><b>産官及び市民社会との協働深化</b> 社会とのつながり強化</p> <p><b>卒業生、同窓会、教育後援会との協働深化</b> 千葉商科大学支援者の拡大と確立</p> <p><b>教育機関連携の強化</b> 初等・中等・高等教育機関連携による社会貢献</p> <p><b>サステナビリティ推進の深化発展</b> 千葉商科大学の社会的価値向上</p>	

### B 高校部門 High school

#### ■使命・ミッション

本校は、建学の精神「実学実践学習の訓育を施し、付属高校生としての素養を身につけ、周囲の情勢におもねることなく常に中道を歩み、将来社会の要請に応えうる質実にして有為な人材を育成する」のもと、教育基本法の精神に則り、中学校に於ける教育の基礎の上に高等学校教育を施し心身健全で責任感に富む公人を育成することを使命とする。

#### ■ビジョン

【CUCHS Vision 75、78】「自立する人間性豊かな高校生」の育成  
建学の精神に示された人間形成と、柏葉教育に語り継がれてきた「豊かな人間関係形成」を図るため、「自立する人間性豊かな高校生」を育成する高等学校をめざす。

#### ■教育目標

- 主体的に生きる力、未来を切り拓く創造力と、豊かな人間性を育むため、5つの力(確かな学力・人間力・グローバル力・イノベーション力・協働力)を身につけさせる。
- グローバル公共性を創出できる力、将来の目標と展望を明確に示す力を備えた、指導力のある人材を育成する。
- 多様なキャリアデザインを描かせ、地域・社会の発展に貢献する人材を育成する。

#### ■教育戦略

- 教育
  - クラス・コースに応じた多様な進路に向けた教育
  - 千葉商科大学と付属高校の高大連携教育の充実
  - ICTを活用した教育の充実
  - 教育改革の推進
- 指導
  - 生徒に教えて学ばせ教養の獲得を促す指導
  - 進路目標の設定と自己実現を支援する指導
  - 柏葉教育に基づいた人間形成を図る指導
- 教育力向上
  - 「明確な目標設定と情報の共有」による目標達成に向けた協働を実現
  - 「教職員及び校務分掌間の一層の連携」による効果的且つ効率的な運営
  - 「指導経験と活動成果の蓄積と活用」と「研修制度」による教職員の授業力向上
  - 「生徒に最善の教育環境を提供」するための教職員のゆとりの創造

### C 法人部門 Corporate sector

#### ■ビジョン・方針

学園の価値向上に向けた多様な経営資源の戦略的活用  
本学園がもつ多様な経営資源を教育・研究活動を中心とする価値創造プロセスに適切に配分し、戦略的に活用できるようにする。  
外部・内部環境の急速な変化の中でも学園全体の持続的な価値向上をめざし、経営方針である「安定的かつ強固な経営基盤の構築」の達成に寄与する。

#### ■戦略

- サステナビリティ経営へ  
社会・経済環境の急速な変化に対応し、組織の内外のリスクを最小化するとともに、学園の教育・研究活動の発展のために強固な経営基盤とガバナンスを整備し、適切な資源配分を行う。
- 社会共創の強化  
多様なステークホルダーとの連携強化により、教育・研究活動の充実と還元を通じ、社会の課題解決に取り組み、新しい価値を共創することで、学園経営に貢献する。

#### ■目標

事業収支計算書における、経常収支差額比率6%の達成

# 学生に関する主要指標

第1期中期経営計画において、大学の「入学定員充足率100%+α」、「離籍率2.0%以下」、「就職率95%以上」を、社会的評価の向上と持続的発展に不可欠な最重要指標として位置づけ、継続的に管理してきました。

これらの指標は、第2期中期経営計画の期間においてすべて目標水準を達成しており、18歳人口の減少や大学間競争の激化、社会環境の変化のなかにあっても、教育力の向上と学生支援の充実により安定的な成果を積み重ねてきました。こうした成果は、千葉商科大学の教育の質を示すとともに、経営基盤の安定にもつながるものです。本ページでは、これら主要指標の推移について整理します。

## 志願者数・入学者数

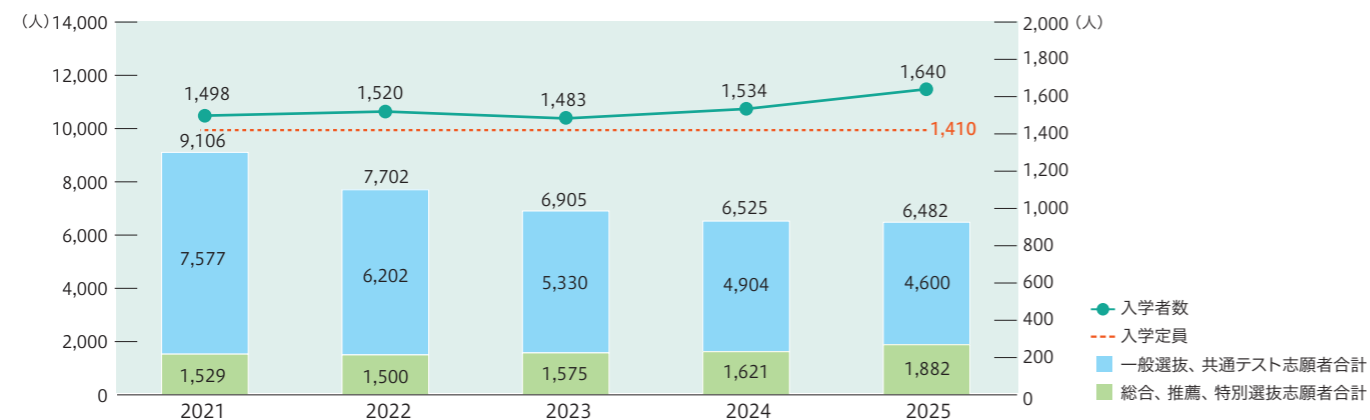
近年の志願者数は、少子化の進行や大学進学環境の変化を背景に、一般選抜を中心として全体では減少傾向が見られます。一方で、総合型選抜および学校推薦型選抜による志願者数は着実に増加しており、千葉商科大学が進めてきた多面的・総合的な評価を重視する入試制度が、高校生や教育現場に浸透してきた結果と捉えています。特に2025年度においては、総合・推薦・特別選抜の志願者数が拡大し、入試区分の構成比にも変化が見られました。

入学者数については、各年度とも入学定員を安定的に充足しており、入学定員充足率は私立大学平均を上

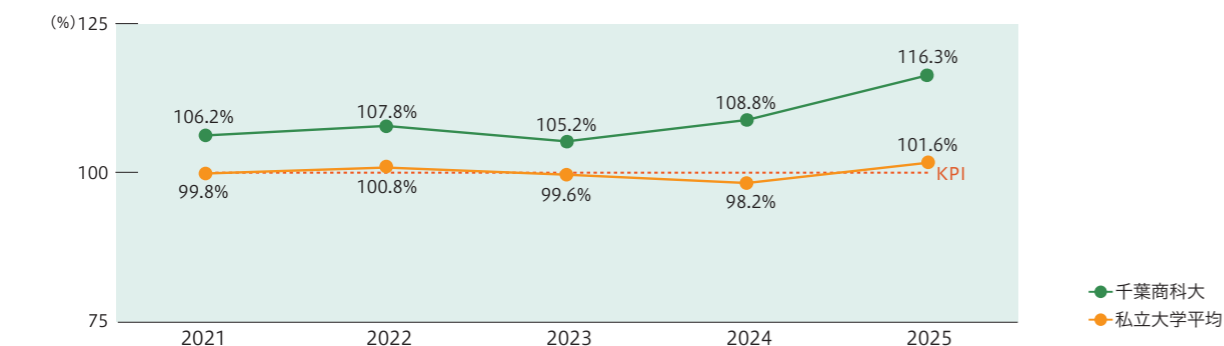
回る水準で推移しています。これは、志願者動向の変化を的確に捉えた入学者選抜の運営と、教育内容や学修環境の充実に継続的に取り組んできた成果と考えています。

学部別に見ると、分野特性や社会的ニーズを反映した増減はあるものの、全体としては大きな偏りはなく、各学部がそれぞれの特色を生かした学生募集を行っています。今後も、選抜方法の多様化と教育の質保証を両立させることで、志願者から入学者への確実な接続を図り、持続的な教育基盤の強化に取り組んでいきます。

志願者数(延べ)・入学者数 推移



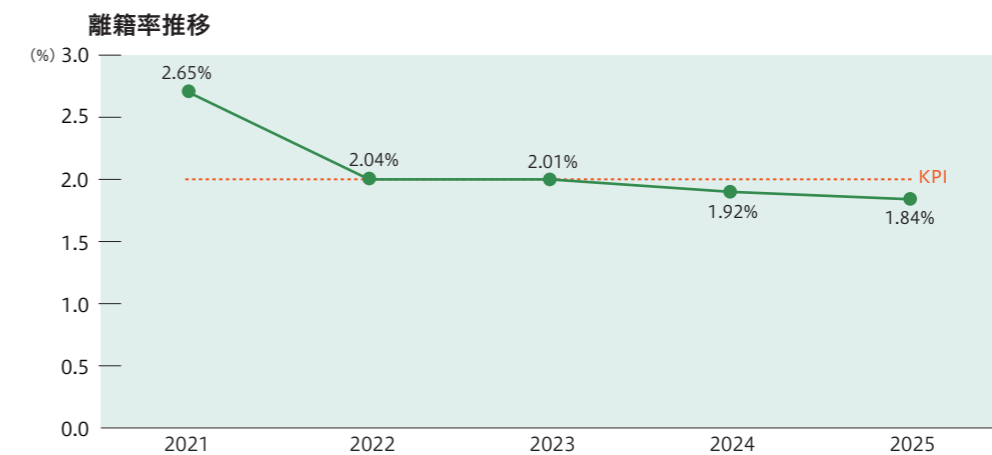
入学定員充足率推移



## 離籍率

千葉商科大学における離籍率は、近年、全学的に低位で推移しており、2021年度以降は緩やかな改善傾向が見られます。特に直近年度では、離籍率はおおむね2%前後の水準を維持しており、学生が学修を継続しやすい教育・支援環境が一定程度機能しているものと考えています。

こうした成果は、初年次教育の充実、学修状況の早期把握、学生相談・修学支援体制の強化など、離籍の未然防止を目的とした継続的な取り組みによるものです。今後も本学では、学修面・生活面の両面から学生を支援する体制をさらに充実させることで、離籍率の抑制と学修継続率の向上を図り、教育の質保証と学生満足度の向上に取り組んでいきます。



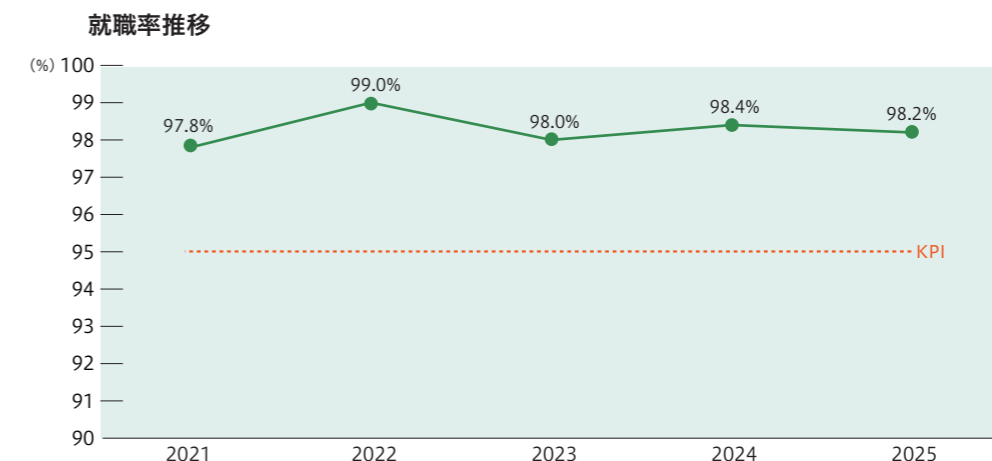
## 就職率

千葉商科大学の就職率<sup>※</sup>は、近年高い水準を維持して推移しています。2021年度以降、就職希望者に対する就職者の割合はおおむね98%前後で安定しており、私立大学平均と比較しても良好な水準を確保しています。

こうした結果は、早期からのキャリア形成支援や個別相談の充実、企業・地域との連携強化など、体系的な就職支援体制の成果と捉えています。また、学修成

果と社会的要請を意識した教育内容の充実により、学生一人ひとりの就業意識と実践力が着実に高まっていることも、高い就職率の維持につながっています。今後も学生の主体的な進路選択を支援するとともに、社会で活躍できる人材の育成を通じて、安定した就職実績の確保に取り組んでいきます。

※ 就職率：就職希望者に対する就職者の割合を示す。



事業報告

【教育】

千葉学園は、実学に基づく専門教育と地域・企業との共創を通じ、多様な社会課題の解決に挑む人材を育成しています。高校から大学・大学院まで一貫した学びを提供し、社会に新たな価値を創出しています。



千葉商科大学では建学の精神に基づき、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を定めています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

建学の趣旨

能力を外にして長幼の序を認め、為にする所なくして人格の光を仰ぎ、天道の自ら至るを恐れ人倫の當に依るべきに従う。人類を一視して其の幸栄を増進し、有用の学術を修め質実の気風を養い、適く所として其の天職を完うせんとす。

建学の精神

今日商業道德の頹廢は頗る寒心すべきものあり。外国貿易の不振も畢竟此処より来る。故に実業家となるべき者に商業道德を吹き込み殊に武士的精神を注入するは最も急務なりと謂わざるべからず。

本学では、建学の精神に基づき、「実学教育」を通じて創設者・遠藤隆吉が唱える「治道家」を育成することを教育の理念とし、以下の力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与する。

治道家とは、「大局的見地に立ち、時代の変化を捉え、社会の諸課題を解決する、高い倫理観を備えた指導者」を指す。

【高い倫理観】

実社会における諸課題を発見し、その解決に主体的能動的に取り組む使命感とモラル

【幅広い教養】

実社会の変化に即応し、多様な人々との協働に必要な豊かな人間性を形成するための普遍的な知識とコミュニケーション力

【専門的な知識・技能】

実社会における諸課題を発見し、解決するための有用かつ高度な専門的能力

本学では、ディプロマ・ポリシーを教育の質保証を図るための起点とし、建学の精神および社会の要請に基づく教育の不断の改革・改善に努める。

特色ある実学教育

千葉商科大学の実学教育とは、単なる知識の習得ではなく、実社会で得られる実践知を身に体し、社会に貢献する力を養うことにあります。創設者の遠藤隆吉は、建学の趣旨において「有用の学術を修め、質実の気風を養い、適く所として其の天職を完うせん」とすることを教育の目的としました。実学とは単に役立つ知識を学ぶことではなく、その知識を通じて人格を磨き、社会に貢献する力を養うことにあります。

遠藤は古典の学びによって精神性を養い、実社会で得られる実践知を身に体することを、真の実学教育であると位置づけています。このような遠藤の思想を基盤に、学生が自らの可能性に気づき、社会において自立的に活躍できる人材の育成をめざしています。

実学に根差した高度会計人材育成——  
専門職教育による社会価値創出

長年にわたり簿記教育を基盤とした体系的な会計教育を展開し、公認会計士・税理士をはじめとする高度会計専門職の育成に取り組んできました。基礎的な商業教育から高度な専門知識の修得まで一貫した学修機会を提供し、理論と実務を架橋する人材育成を推進しています。

公認会計士分野では、体系的指導のもと、2025年度は短答式試験に3名が合格し、学生が着実に学修成果を上げています。

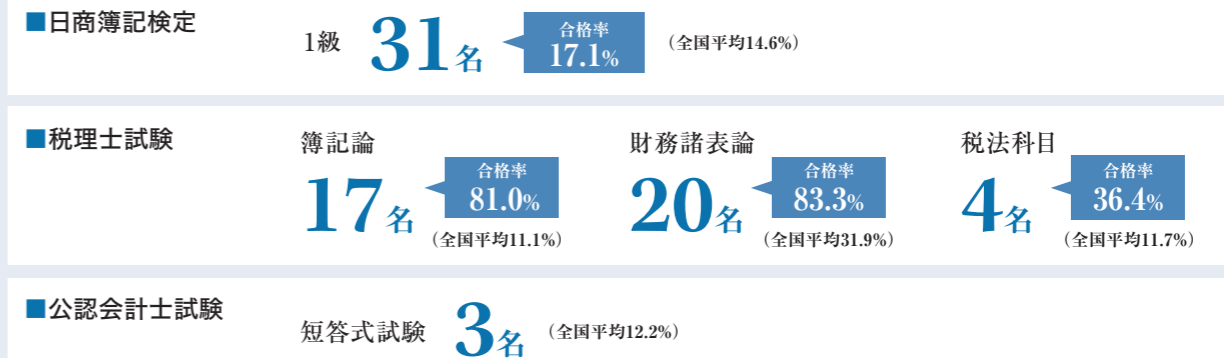
税理士分野においても、大学院進学支援や税理士事務所との連携を見据えた新プログラムの設計を進め、専門職養成機能の高度化を図っています。日商簿記検定において多数の学生が受験・合格するなど、長年の商業教育の蓄積が成果として表れています。

これらの取り組みを基盤に、2026年度からは4年間で公認会計士試験合格を目標とする新たな公認会計士プログラムを新設し、特待生入試や単位認定制度、専門指導者による学修支援、専用学習室の整備など、資格取得に直結する学習環境を整備しています。商科大学としての専門性と教育力を一層強化していきます。



千葉商科大学の合格実績

(2025年度実績)



## 実学教育による人的資本投資と社会価値の創出—— 中小企業診断士育成プログラムの成果

中小企業診断士の育成を通じて、経済の持続的成長を支える高度専門人材の育成に取り組んでいます。本取り組みは、大学が掲げる「実学教育」を人的資本投資として具体化したものであり、教育成果を社会価値へとつなげる点に特徴があります。

商経学部では正課授業に加え、現役中小企業診断士による個別指導を行う「診断士育成会」や外部専門家による特別講義を通じて、学修の継続性と実践性を高めています。これらの教育設計により、複数年度にわたり1次試験全科目合格者・科目合格者を安定的に輩出しており、教育の実効性を示す定量的成果となっています。

一方、大学院商学研究科「中小企業経営管理コース」に設置された中小企業診断士登録養成課程では、第2次試験が免除され、修士（経営管理）学位と国家資格を同時に取得することが可能です。本課程は2010年の設置以降、2026年3月までに累計250名（15期）の中小企業診断士を輩出しています。省令で定められた必須科目に加え、実務に直結する演習・実習を体系的に配置した教育設計の成果であり、本学の実学教育の質を示す重要な指標です。



教育の中核を担うのは、現役の経営コンサルタントや実務家を中心とした教員陣です。理論と実践を往還する講義・演習を通じて、学生は経営戦略、財務・会計、法務、人材管理などを横断的に捉える課題分析力に加え、経営者との対話を通じたコミュニケーション力を培っています。

特に、1・2年次に段階的に実施される企業診断実習では、製造業や流通業など多様な業種の企業を対象に、現状分析から経営戦略立案、改善提案までを行っています。さらに、AI活用、ダイバーシティ経営、コーチング、再生可能エネルギーなどの独自科目を設置し、持続可能性や人的資本経営といった新たな経営課題にも対応できる診断士の育成を進めています。

授業は土日を中心に編成し、社会人が仕事と学修を両立できる環境を整備しており、多様なバックグラウンドをもつ学生同士の相互研さんは、修了後も続く人的ネットワークの形成につながっています。

本学は、今後も本課程を通じて、地域経済と企業価値の向上に資する人的資本の高度化を推進し、社会への価値還元を継続していきます。



## 国内外の課題に向き合う実践教育—— 学生と地域、そして海外との共創による政策提案力の向上

大学で学ぶ知識を社会の現場で役立てるよう、実際に現場に足を運び、人々との対話を通じ、国や地域によって異なる課題を解決する学生の政策提案力を育む目的として、総合政策学部では政策研修プログラムを実施しています。

国内では、人口減少や高齢化が見られる中、住民、行政、外部人材が協働しながら、持続可能な地域をめざす取り組みが求められます。ここでは、福島県会津町奥川地区を対象として、稲刈り体験や住民・行政との交流を通じ、限界集落での関係人口の役割と可能性を学びました。廃校を活用した芸術活動や移動販売などの事例から、学生は地域の価値を発見し、発信する視点を養いました。

海外ではフィリピン・マニラを対象とし、貧困、災害、インフラ不足などの社会課題を理解し、日本の政府（JICA）、NPO（アイキャン）、企業（ヤク



ルト）の現地での支援活動やビジネスを通じ、それらの解決に向けた取り組みを学びました。中でも、路上で生活する子どもたちとの対話から、人に寄り添い、真のニーズに応える支援の重要性を把握し、国内の多文化共生にも応用し得る示唆を得ました。

これらを通じて、地域や海外での実践的な政策提案に貢献する人材へと成長する契機を得ています。

## 「食×サービス」で拓く社会価値—— 産学連携によるサービス創造の取り組み

若年層における野菜摂取不足は、健康および食文化の観点から重要な社会課題です。サービス創造学部では、「学問から学ぶ」「企業から学ぶ」「活動から学ぶ」の3つの学びを基本に、企業・地域と連携した課題解決型教育を通じて、新たなサービスを構想・実装できる人材の育成に取り組んでいます。

2025年度、プロジェクト実践における「新サービス研究開発・プロジェクト」の授業では、カゴメ株式会社と連携し、学生へ実践的な学びを提供しました。2025年7月の「VEGEチャレ2025」では、農園での収穫・調理体験を起点に展示・映像を制作し、学内展示を通じて行動変容の可能性を検証しました。

また、2026年1月の「やさジャンクフェス」では、「野菜×ジャンクフード」という新たな価値提案を学内で先行し、提供した124食が完売しました。調査では「また食べたい」100%、「野菜への印象向上」97.1%と高い評価を得ています。



本取り組みは、学生の企画力・実装力および研究知見の向上に寄与するとともに、産学連携を通じた社会関係資本の強化を実現し、大学・企業・地域の三者に価値を創出しました。今後は、得られた知見を次年度以降に継承し、継続的な実装と検証を通じて、中長期的な社会価値創造につなげていきます。

### ウェルビーイング実装をめざす地域共創型教育

人口減少や地域コミュニティの希薄化など、地域社会を取り巻く課題が複雑化する中、大学には教育・研究を通じて社会課題の解決に貢献する役割が求められています。人間社会学部では、「人・社会・自然のウェルビーイング」を構想し、実装できる人材の育成を目的として、2025年度に山武市と連携した実践的なアクティブ・ラーニングを展開しました。

本取り組みでは、学生が市職員、地域住民、事業者と協働し、現地調査やワークショップを通じて地域資源や課題を分析し、観光振興やコミュニティ活性化に関する提案を行いました。あわせて、59名の学生が「山武市応援学生隊」に委嘱され、企業と連携した体験型ツアーの企画・運営に参画するなど、実社会と接続した学修を実現しています。



これらの成果は、市の施策検討にも活用されるとともに、学生の課題発見力、協働力、実践的思考力の向上につながりました。本連携は、学生の人的資本の高度化に加え、自治体や企業との信頼関係という社会関係資本を強化し、大学の社会的価値を高める取り組みです。今後も地域との共創を深化させ、持続可能な地域社会を支える人材育成を推進していきます。

### 防災・エネルギー教育によるレジリエンス人材の育成—— 社会課題解決に資する実践知の体系化

防災・エネルギー領域における社会課題の深刻化を踏まえ、実践的な学びを通じて社会価値を創出する人材育成を強化するため、「防災・エネルギーセンター」を設置しました。

激甚化する自然災害、気候変動リスク、エネルギー供給の不確実性など、レジリエンス向上の重要性は高まっており、これまで、防災教育やメガソーラー運用による「自然エネルギー100%大学」実現に向けた取り組みを学生とともに推進してきました。

本センターでは、これら個別の取り組みを体系化し、知識・技術・経験を共有する教育基盤へと発展させることで、学生の主体的学修を一層深化させます。あわせて、専門的知見に加え、倫理観・

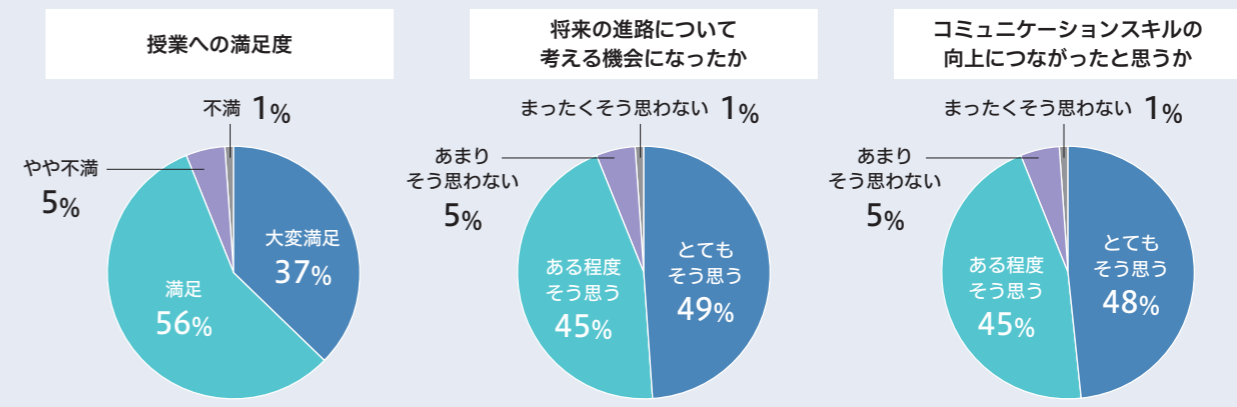


俯瞰力・実践力を備えたレジリエンス人材を育成し、地域・社会が直面する課題解決に寄与する教育体制を確立していきます。

### 主体性を育てる初年次教育—— 対話型プログラム「自分未来ゼミ」の成果

自分未来ゼミは、1年生が学部・学科の枠を超えて集い、自身の学生生活や卒業後の進路、社会との関わりについて主体的に考え、対話し、発表する初年次必修科目です。キャリア入門とコミュニケーションスキル入門を融合したワークショップ型授業として位置づけ、講義動画の視聴と少人数グループでのディスカッション、プレゼンテーションを中心に展開されます。授業では、自己理解や大学・社会・企業への理解を深めるとともに、卒業生や社

会人によるゲストスピーカーの講話を通じて、多様なロールモデルから学ぶ機会を提供しています。教員はファシリテーターとして学生の対話と学びを支援し、学生が主役となる学修環境を実現しています。授業を通じて、学生は自ら考え行動する姿勢を養い、大学生活の目標設定や将来への視野を広げるとともに、協働的に学ぶ力を身につけることをめざしています。



### 対話を通じた主体性と成長の基盤づくり

自分未来ゼミは「放課後の教室」をコンセプトに、学生が安心して自分の考えを言葉にし、他者の視点に触れながら視野を広げていく場として設計しました。授業では、知識編・スキル編・ロールモデル編からなる動画教材を基盤とし、教室内での対話やグループワークを通じて学びを深める構成としています。動画教材の活用により、内容理解のしやすさと教育の質の均一化を図るとも

に、教員の授業運営における負荷軽減にもつながりました。

講義運営に関するノウハウは、教職員間でオンライン・対面の双方を通じて共有され、マニュアルや講義資料として体系化されています。その結果、グループワークを円滑に進めるための工夫や学生の集中力を高める指導方法が蓄積され、本科目の運営を通じて教職協働が一層深化するという副次的な成果も生まれました。

当初は、1年生同士の議論がどこまで活性化するか懸念もありましたが、教員やSA (Student Assistant)、職員



基盤教育機構 教授  
常見 陽平



サポーターによる適切な支援のもと、学生同士の対話は次第に深まり、コミュニケーションスキルに対する自信や成長を実感する声も多く聞かれるようになりました。また、授業内での情報提供を通じて、学内のキャリア関連施策への関心を高める契機にもなっています。

今後は、教材内容のさらなる高度化やロールモデルの一層の多様化を進めるとともに、本科目の教育効果をより客観的に把握するため、成果の定量的な検証にも取り組んでいきたいと考えています。

### 多文化協働による人的資本育成—— 国際的学修交流を基盤とした学びの循環モデル

本学では、異なる文化的背景を持つ他者と協働し、自ら考え行動し続ける力を備えた人材の育成を、大学としての価値創造の基盤と位置付けています。

千葉商科大学国際センターでは、海外派遣プログラムおよび留学生の受入を通じて、多様な文化的背景を持つ学生同士が協働しながら学ぶ多文化共修の機会を提供しています。また、学内のグローバル拠点である iSquare を核に、日常的に外国語や異文化に触れる機会を設け、海外派遣や学内外の学びを接続しています。



海外派遣プログラム（語学研修、交換留学、交流プログラム等）参加人数・推移（年度別）

2023年度	2024年度	2025年度
95	141	112

留学生数・推移（年度別）

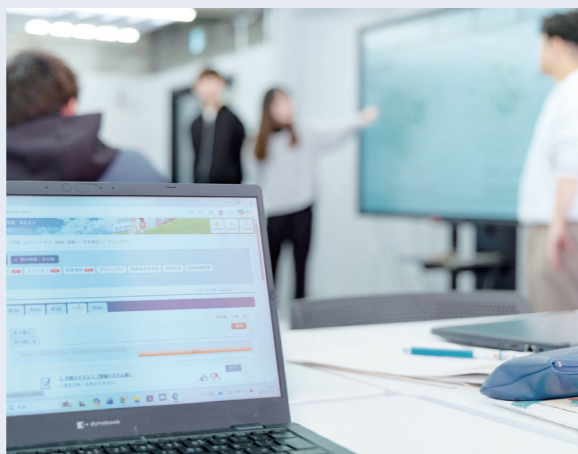
2023年度	2024年度	2025年度
36	27	54

iSquare のべ利用者数・推移（年度別）

2023年度	2024年度	2025年度
4,204	3,971	3,935

### 数理・データサイエンス・AI教育の推進 —— 千葉商科大学 数理・データサイエンス教育プログラム

本学では、全学的にデータサイエンス・AI教育を推進し、データに基づいて課題を発見し解決できる人材の育成に取り組んでいます。文部科学省のモデルカリキュラムに準拠した教育プログラムを整備し、全学共通科目として展開することで、多くの学生が基礎的なデータ活用力を身につけています。本プログラム修了者の進路では、情報通信業への就職割合が全体平均を上回るなど、学修内容と進路選択との関連が見られます。



### デジタル共創型キャリア支援——

#### 学生と企業をつなぐ「me R AI / AKINAI」が拓く新たな成長機会

学生一人ひとりの強みと学修成果を可視化し、社会での活躍につなげることをキャリア支援の基本方針としています。その中核として、学生と求人企業との「ベストマッチング」を実現するデジタル基盤を整備し、持続性と実効性を兼ね備えたキャリア支援体制の構築を進めています。

#### 逆オファー型マッチングサイト「me R AI(みらい)」

「me R AI」は、学生とCUCアライアンス企業<sup>※</sup>が相互にプロフィールを登録・閲覧し、双方向にアプローチできる大学独自のマッチングプラットフォームです。メッセージや掲示板機能により、オンラインで継続的な対話機会を提供しています。

2026年1月末時点で、3・4年生の約9割に当たる2,667名と全アライアンス企業1,159社が登録し、そのうち学生約4割、企業約6割がプロフィール更新やメッセージ送信など積極的に情報発信を行っています。

売り手市場の進行による情報過多や就職活動の早期化が懸念される中、「me R AI」はデジタル上の中間的な労働市場として、学生と企業のミスマッチ解消と機会格差の縮小に貢献しています。今後は、就職支援AIツールを搭載し、求人レコメンドや選考準備の個別支援を強化し、キャリア支援と企業向けマーケティング機能をさらに高度化していきます。

※学生の採用やキャリア教育に積極的な企業

#### キャリアスキルシート「AKINAI(あきない)」

「AKINAI」は、大学が独自開発し「me R AI」に実装したキャリアスキルシートです。学生は大学での学びや課外活動、アルバイト経験等を振り返り、強みや特長を体系的に整理できます。その内容は履歴書だけでは伝わりにくい経験や人柄を補完するPRシートとして企業に提示されます。

大学で学修成果の可視化が進む一方、評価指標と企業の選考視点のギャップが指摘されています。「AKINAI」は学生の自己理解を深めるツールとして、企業の面接・選考補助として機能し、このギャップを埋めています。

学内イベント出展企業の約3割が「AKINAI」提出学生に選考プロセスの一部免除などの特典を設けており、企業・学生双方にとっての有用性が確認されています。

#### 数字で見るサポート体制

(2025年度実績)

■CUCアライアンス企業数

1,124社

■CUCミライアンス企業数

117社

※「事業優位性」「働きやすさ」「SDGsへの取り組み」の大学独自基準を満たす企業

■大学求人件数

47,199件

■UIターン就職促進協定数

13道県、2市

■キャリア支援スタッフ数

16名

■イベント開催日数

約120日

■開催講座数

45種類

#### キャリア支援活用実績

(2025年度実績)

■キャリア支援センター利用率

86.8%

■個別相談数

6,956件

■CUCアライアンス企業内定率

36.8%

### 「お金」から人生と社会を考える—— 高大連携による金融リテラシー×SDGs教育

付属高校では、人生100年時代や成年年齢18歳への引き下げといった社会の変化を背景に、金融リテラシーを「人生を主体的に設計し、社会と関わるための基礎能力」と位置づけた教育を展開しています。

金融リテラシー教育は、家計管理や税・社会保障、貯蓄・投資といった実生活に直結する知識に加え、SDGsを通じて社会課題と個人のライフプランを結びつけて学ぶ点に特色があります。また、大学との高大一貫教育体制や、日本FP協会（特定非営利活動法人 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会）との連携により、専門性と実践性を両立した教育環境を整備しています。これにより、生徒は短期的な損得に左右されない判断力や、社会の持続可能性を意識した意思決定力を身につけています。

さらに、自らの価値観や将来像を言語化し、変化の大きい社会においても主体的に選択・行動できる力の育成を重視しています。今後も本教育を通じて、経済的に自立した個人の育成と、持続可能な社会の担い手の創出を同時に実現し、実学教育による中長期的な価値創造を推進していきます。



### ルーブリック評価による教育成果の可視化—— 定量評価を通じた価値創造の実践

付属高校では、第3期中期経営計画「CUCHS Vision75、78」において、建学の精神及び柏葉教育に基づく人間形成を一層推進するため、ルーブリック評価を重点施策として位置づけています。本評価の目的は、従来数値化が困難であった価値観やスキルを可視化し、生徒の成長を客観的かつ継続的に把握するとともに、教育活動の改善につなげる点にあります。

ルーブリック評価の導入により、生徒は自身の成長を自己評価し、目的を持って行事や学校生活に取り組むと同時に、教職員は行事や探究活動、日常指導の成果をデータに基づき検証できるようになりました。その結果、入学時から卒業時まで各評価項目平均を0.3ポイント伸長させるとい



う定量目標を達成し、価値観・スキル・全体のすべてにおいて着実な向上が確認されています。

今後は、ルーブリック評価を教育改善の中核指標としてさらに高度化し、行事・授業・探究活動との連動を強化することで、教育の質保証と説明責任を両立させた持続的な価値創造をめざしていきます。

### 地元企業と共に新たな価値を創造するPBL型学習—— 商業科ビジネスコース「価値創造プロジェクト」

付属高校商業科ビジネスコースの授業「価値創造プロジェクト」では、「地元企業と共に新たな価値を創造する」をテーマに地域課題の解決をめざし、実践的な学びを通じて、生徒の創造性や思考力を育成しています。

本プロジェクトでは、首都圏を支える重要な海域でありながら、磯焼、赤潮、青潮、栄養化・高水温による生態系の変化など複合的な環境課題を抱える東京湾をテーマに設定しました。生徒は、海洋環境に影響を及ぼすサルボウガイやクロダイ、キビレに着目し、地元の漁師が経営する練り物店と連携して、これらの魚介類を活用したちくわを商品化し、「いちくわ」と名付けました。

完成した商品は「道の駅いちかわ」で販売され、来訪者との接点を通じて東京湾が抱える環境課題

を伝える機会を創出しました。本取り組みにより、生徒は社会課題を自ら発見し、価値へと転換する実践的な学びを深めるとともに、地域企業や来訪者との共創を通じて社会関係資本の形成・強化を図りました。今後も地域との共創を深化させ、持続可能な地域社会を支える人材育成を推進していきます。



### 国際共修によるグローバル人材育成—— 異文化理解と対話を基盤とした学びの深化

付属高校は、「国際化ビジョン」に基づき、異文化理解と多様な価値観を尊重できる人材の育成を目的として、グローバル教育を体系的に推進しています。本取り組みは、語学力の向上にとどまらず、国際的な視野と主体性を備えた次世代人材の育成を教育の重要な柱に位置付けるものです。

校内では、国際交流室「Shodai Global Guild (SGG)」を中心に、放課後の学習活動や外国人スタッフとの交流機会を提供し、生徒が英語や異文化に日常的に触れられる環境を整備しています。多様なアクティビティを通じ、生徒が自ら考え、対話し、異文化理解を深める仕組みを継続的に拡充しています。

また、市川市との連携により、フランスのイッシー・レ・ムリノー市立イオネスコ高校との短期交換留学（ホームステイを含む）を継続実施し、相互尊重を基盤とした国際理解の深化を図っています。さらに2025年度は、新たにニュージーランドの高

校生との交流プログラムを開始し、学びの機会を拡大しました。参加生徒からは、異文化適応力の向上や学習意欲の高まりなど、定性的にも高い成果が確認されています。

今後は、さらなる海外校との連携強化を進め、より多くの生徒が国際的な学びに参画できる環境づくりを継続していきます。



事業報告

【研究】

千葉商科大学は、研究体制の再編を通じて学術研究の中核機能を強化し、研究力の高度化と社会価値の創出を推進しています。総合研究センターを軸に、分野横断的な研究支援と成果発信を行い、社会・地域との連携による知の社会還元に取り組んでいます。

持続的な研究力向上への取り組み——  
外部資金獲得支援と採択率改善の推進

研究力強化を重要な経営課題のひとつと位置づけ、外部資金の安定的な獲得をKPIとして設定し、研究支援体制の高度化と共同研究・受託研究の拡大に取り組んでいます。

2025年度は、前年度からの継続案件に加え新規採択案件が増加し、外部資金による研究実施件数は2024年度の8件から11件へと増加しました。政府関係機関の競争的資金や委託費を中心に研究活動が進展し、研究ポートフォリオの拡充が進んでいます。

外部資金による研究実施件数

区分	2024年度	2025年度
共同研究	4件	3件
受託研究	2件	3件
研究助成金	2件	2件
受託事業	0件	1件
研究寄付金	0件	2件
合計	8件	11件

また、外部資金への応募件数は5件から11件へと倍増しており、研究者の挑戦行動が定量的に拡大しました。一方、科研費については申請件数の増加に対し採択率が低下していることから、申請の質が今後の課題として顕在化しています。

この課題に対応するため、申請前段階からの個別伴走支援、過年度不採択案件に対するフィードバックの体系化を進め、採択率の改善と中期KPIの達成を通じた持続的な研究力向上を図ります。

科研費の採択実績

年度	申請件数	採択件数	採択率
2025年度	22件	5件	22.7%
2026年度	23件	4件	17.4%

※年度は採択年度

科研費採択件数における本学の順位（私立大学）

採択年度	件数	金額（千円）	順位
2025年度	18	21,580	253
2026年度	16	22,360	238

※件数、金額は新規採択分と継続分を合わせたもの。金額は（直接経費＋間接経費）※順位は私立大学・専門職大学・大学院大学等を配分額の合計順で算出される  
出典：教育芸術新聞（科学研究費補助金 | 教育芸術新聞 | 日本私立大学協会）

学術研究の中核機能強化による社会価値創出——  
研究体制の再編と知の社会還元の推進

学術研究の中核機能を強化するため、2023年3月に研究体制を再編し、複数の研究所を統括する「総合研究センター」を設置しました。2024年度には5研究所体制へ拡充し、研究プロジェクトの企画・運営支援、研究成果の公表・社会活用、機関誌の刊行、シンポジウム等を通じて、研究力の高度化と持続

的な発展を推進しています。

研究所合同で行うフォーラムや各研究所で実施する研究会・勉強会を通じて、定常のおよび競争的プロジェクトの成果を発信するとともに、外部資金の獲得や社会・地域との連携を強化し、研究成果の社会還元を進めています。

経済研究所 定常的プロジェクト（2025年度）

女性労働力参加とワークライフ・バランスの動態的研究  
—古代ギリシアから現代東アジアへの影響—

本研究は、古代ギリシアに起源をもつ労働観・ジェンダー観が西欧思想として継承され、現代の労働制度やジェンダー規範に影響を与えてきた歴史的過程を明らかにするものです。東アジアの中でも台湾に焦点を当て、台北・高雄で現地調査お

よび資料収集を実施し、女性の労働力参加や家庭との両立をめぐる制度的・文化的要因に関する知見を得ました。研究成果は国内外で発表・論文文化し、セミナー等を通じて知見を社会に還元しています。

遠藤隆吉研究所 競争的プロジェクト（2025年度）

遠藤隆吉の社会学史的位置に関する基礎的研究  
—日本社会学草創期の一断面—

本研究では、日本の社会学草創期を代表する社会学者の一人である遠藤隆吉の主著『社会学原論』（1922年）を検討しました。本書で遠藤は、欧米の最新の社会学説を体系的に整理しながら、「社会力」や「社会我」など独自の概念も展開しています。遠藤は、個人の生存の意味を精神

の「完全なる発達」に求め、平等主義・社会主義的理想と個人主義的理想との統合を志向する社会学思想へと結実させています。本研究ではこうした遠藤社会学を、大正期の両義的な時代思潮の中に置き直し、その意義と課題を考察しました。



サステナビリティ研究所 競争的プロジェクト（2025年度）

産官学協働による地域防災プロジェクト

本研究では、「地震・台風・酷暑」等の突発的ショック、「少子高齢化・不景気・格差・犯罪」等の慢性的ストレスを発展に繋げるきっかけにできる「レジリエントな都市」機能に関する試行的実証研究を行っています。産官の協力の下、防災意識醸成のために国府台地区の教育・医療機関連携組

織「国府台コンソーシアム」の防災イベント、歴史的資源「赤レンガ活用」の模型展示・シンポジウム、罹災時の避難路充実のための合意形成手法研究などを行いました。



事業報告

〔社会連携〕

実社会を学びの場とする実学教育を基軸に、地域社会と連携した教育・研究・社会貢献を学園全体に展開してきました。市川市をはじめとする多様なステークホルダーとの継続的な協働を通じて培われた信頼関係は、本学園の重要な社会・関係資本であり、地域課題の解決と人材育成を両立させる価値創出の源泉となっています。



地域連携推進センター長

朽木量

本学は、千葉商科大学創立100周年(2028年)に向けた将来構想「CUC VISION 100」の中の一つに、「日本で一番、地域、市民に役立つ大学となる」ことを目標に掲げています。そのため「実学教育」を通じて、地域とともに価値を創り続ける

地域とともに価値を創る大学として

— 市川市から千葉県全域、さらにその先へ —

地域密着型大学として歩んできました。地域社会との信頼関係や協働の積み重ねは、本学にとって欠かすことのできない社会・関係資本であり、教育・研究・社会貢献を支えるとともに、中長期的な価値創出を支える経営基盤として位置づけています。2008年5月に市川市と締結した包括協定は、その象徴的な取り組みです。さらに、この包括協定を起点に、市川市内5大学による大学コンソーシアム市川、市役所・商工会議所も交えた産学官連携プラットフォームへと連携の輪を広げており、文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」への継続的な採択につながっています。2025年度からは、「CUC地域活動支

援よろず相談窓口」を開設するとともに、「地域志向活動助成金」の対象エリアを千葉県全域及び本学在学学生を多く送出す近隣市区(東京都・埼玉県・茨城県の一部)に広げ、より広域での地域連携に乗り出しました。これらの改革により、全国に先駆けて「中間支援組織としての大学」という立場を明らかにするとともに、2026年度からは「千葉県市民活動支援組織ネットワーク会議」及び同幹事会にも参画していくことで、「日本で一番、地域、市民に役立つ大学」となるための次の一歩を踏み出すことにしました。今後も本学は、地域との信頼関係を基盤に、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。

地域と共に育む実学教育 —  
大学コンソーシアム市川による人的資本形成と社会価値創出

2018年に設立された「大学コンソーシアム市川」は、市川市内の複数の高等教育機関が参画し、教育資源の共有や相互連携を通じて、教育・研究の質的向上および地域社会の発展に資することを目的としています。さらに、市川市および市川商工会議所と産官学連携包括協定を締結することで、「大学コンソーシアム市川産官学連携プラットフォーム」を形成し、地域課題の解決、人材育成、地域産業の振興、生涯学習の推進など、多面的な取り組みを展開しています。こうした継続的な連携体制による活動が評価され、文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」タイプ3(プラットフォーム型)に7年連続で採択されています。

2025年度に実施した「キッズビジネスタウン®いちかわ」では、参画大学の学生が運営を担い、地域の小学生に対して職業体験の機会を提供しました。

また、共通科目「市川学」では、参画大学が協働してカリキュラムを編成し、地域の歴史・文化・産業を題材とした学びを提供しました。

今後も、地域課題の持続可能な解決へ向けた「地域つながり力」をもつ人材の育成を通して、地域の高等教育および地域社会の発展に寄与していきます。



地域とともに育む実践的探究教育 —  
高大産学連携による価値創造

千葉商科大学は、「地球がキャンパス」という考えのもと、地域社会と連携した実践的な学びを通じて、社会課題に向き合い行動できる人材の育成を推進しています。実社会を学修の場とする実学教育は本学の中核であり、学生の課題発見力や実行力の涵養、地域との信頼関係構築につながっています。

こうした地域連携教育を人的資本形成の起点として位置づけ、高大連携に注力しています。特に高校低学年の探究学習の充実を図り、2025年度には、高大産学連携による探究学習プログラム「Future Quest探究(Input型)」を新たに開発しました。

本プログラムは、高校生が大学で学ぶ意義や将来の進路を主体的に考える機会を提供し、本学の教育理念や学びの特色への理解を促進することを目的としています。2025年度は千葉県内の高校1年生1,053名が参加しました。さらに、市川市内の

中学校との連携も開始し、より早い段階から学ぶ目的を主体的に考える機会の提供に取り組んでいます。生徒や高校教員も参画することで、本学教育への理解を共有し、継続的な連携体制の構築を進めています。また、高校教員対象の高大産学連携勉強会も実施し、実践的な探究学習の推進を支援しています。今後は、プログラムの高度化や対象校の拡大を通じて効果的な進路形成支援を実現し、本学の教育方針と親和性の高い入学者の確保と、地域に根差した人材育成の両立を図っていきます。



事業報告

【キャンパス整備】

「千葉商科大学キャンパス・校舎整備計画」に基づき、教育・研究環境の質的向上と中長期的な施設価値の向上を目的として、段階的な施設・設備整備を推進しています。



在学生の学修環境整備を通じた教育価値の向上  
現在の学生の学びを支えるキャンパス整備

千葉商科大学では、中長期のキャンパス整備計画の推進と並行し、学生生活実態調査等を通じて把握した在学生からの施設・設備に関する要望を踏まえ、教育活動への効果や利用実態、早期対応の必要性と教育効果の観点から優先度を明確化した改善施策を選定・実施しました。

今後も、学生の学修環境に関する定期的な把握と改善を通じて、学修満足度および教育環境の継続的な向上を図っていきます。



3号館学生談話室

◆2025年度実績

- (1) リラックススペースの整備  
2号館エントランス、3号館学生談話室、6号館エントランス、学生ベンチャー食堂(アゴラ館)
- (2) ボトルフィルター式冷水器の設置  
1号館1台、3号館1台、学生ベンチャー食堂(アゴラ館)1台の計3台設置
- (3) スマートロッカーの設置
- (4) 教室の固定イスにクッションの設置



学生ベンチャー食堂(アゴラ館)



教育・研究基盤の高度化による価値創出—  
キャンパスグランドデザインに基づく学修環境整備

第2期中期経営計画およびアカデミックプランを踏まえ、「千葉商科大学キャンパスグランドデザイン」を策定し、キャンパスの将来像と実現に向けた基本的な考え方を整理しました。施設の老朽化、防災・安全面の課題、利用実態の変化といった現状を踏まえ、キャンパス全体を俯瞰した課題整理を

行うとともに、エリアごとの特性や役割を明確化しています。

基本方針および整備方針は、大学がめざすキャンパス像と、その実現に向けた方向性を体系的に示すものです。

千葉商科大学キャンパスグランドデザイン

5つの基本方針と各基本方針において重点的に取り組むキャンパス整備の方向性(整備方針)

基本方針-1 地域と共に教育・研究に取り組み、イノベーションを創出する

- 【整備方針】
- ・いつでも、だれもが活用できる魅力的なキャンパスを整備する。
  - ・国籍・所属組織・専門分野・価値観の異なる多様な人々が集い意見を交わすことのできる環境を整備する。
  - ・地域・学生・教職員の交流を促し、近隣地域のHUB(結節点)となる施設を整備する。

基本方針-2 多様な学修と実践的な学びを創出し続ける

- 【整備方針】
- ・ICT環境を充実させ、グローバル化およびデジタル化の進展など社会変化に対応できる教育・研究環境を整備する。
  - ・実践的な学びを提供するためのエリア・スペース・空間を確保するなど「実学教育」を体感できる学修環境を整備する。
  - ・教育・研究環境の適正化、施設の集約を行うことで、ソフト面ハード面の充実を図る。

基本方針-3 快適で学びやすく働きやすい環境とする

- 【整備方針】
- ・ユニバーサルデザインを積極的に取り込みながら快適で居心地がよいと感じる環境を整備する。
  - ・オープンな空間やカジュアルなコミュニケーションスペースなど、学生・教職員間のコミュニケーションが自然発生するような環境を整備する。
  - ・学びやすさ、働きやすさを環境面から追求し、高断熱化をはじめとする人にやさしい環境を整備する。

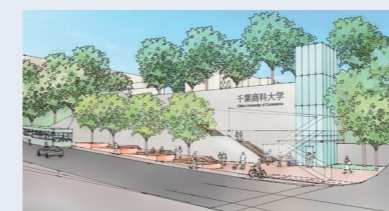
基本方針-4 防災機能を強化し、誰もが安心安全に活用できる拠点とする

- 【整備方針】
- ・災害に備え、避難場所の確保やインフラの強化に努め、有事の際にも大学の機能が維持できる環境を整備する。
  - ・学生の安全と地域防災拠点としての視点を踏まえて、通学路をはじめ、キャンパスへのアクセスを整備する。
  - ・地域の拠点として、誰もが安心して往来できるように、セキュリティの適正化を図る。

基本方針-5 既存資産を有効活用するとともに、自然との共生や脱炭素に貢献する

- 【整備方針】
- ・建物、樹木、メインストリートなど、キャンパスの特徴を継承しつつ、新規資産・機能も融合させた、新しいキャンパスをデザインする。
  - ・グリーンインフラ、環境保全を踏まえて、キャンパスをパーク化し、自然と共生する新しい空間を実現する。
  - ・自然エネルギー100%大学を進化させ、断熱性能の向上などエネルギー消費を抑える施策を講じ、より持続可能なキャンパスを実現する。

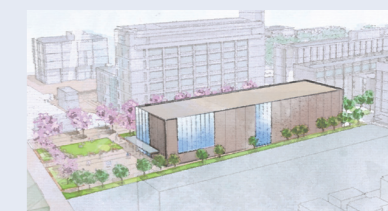
※パース図はイメージです



南西エントランス



新棟と桜並木



新棟

# 組織概要

## About CUC

### ■設置する学校・学部・研究科等 (2025年5月1日現在)

千葉商科大学		千葉商科大学大学院	
基盤教育機構		博士課程	政策研究科
商経学部	商学科 経済学科 <sup>®</sup> 経営学科	修士課程	商学研究科
政策情報学部	政策情報学科 <sup>®</sup>	専門職学位課程	会計ファイナンス研究科
総合政策学部	経済学科 政策情報学科	千葉商科大学付属高等学校	
サービス創造学部	サービス創造学科	全日制課程	普通科
人間社会学部	人間社会学科		商業科
国際教養学部	国際教養学科 <sup>®</sup>		

※2025年度入試より募集停止

### ■学生・生徒数 (2025年5月1日現在)

#### (1) 学部・大学院

(単位：人)

学部 / 課程	学科 / 研究科	1年次		2年次		3年次		4年次		計	
		定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
商経学部	商学科	450	613	430	453	430	474	430	484	1,740	2,024
	経済学科	-	2	200	224	200	213	200	242	600	681
	経営学科	200	216	180	203	180	186	180	233	740	838
	計	650	831	810	880	810	873	810	959	3,080	3,543
政策情報学部	政策情報学科	-	-	125	159	125	132	125	136	375	427
総合政策学部	経済学科	150	170	-	-	-	-	-	-	150	170
	政策情報学科	150	164	-	-	-	-	-	-	150	164
	計	300	334	-	-	-	-	-	-	300	334
サービス創造学部	サービス創造学科	230	289	200	235	200	210	200	217	830	951
人間社会学部	人間社会学科	230	190	200	213	200	199	200	218	830	820
国際教養学部	国際教養学科	-	-	75	31	75	33	75	40	225	104
	学部合計	1,410	1,644	1,410	1,518	1,410	1,447	1,410	1,570	5,640	6,179
大学院	博士課程	6	1	6	2	20	6			32	9
	修士課程	51	48	51	37					102	85
	専門職学位課程	70	104	70	97					140	201
	大学院合計	127	153	127	136	20	6			274	295

※ 文部科学省「学校基本調査」より

#### (2) 付属高等学校

(単位：人)

学科	1年生		2年生		3年生		計	
	定員	現員	定員	現員	定員	現員	定員	現員
普通科	205	191	205	282	235	203	645	676
商業科	70	70	70	66	40	48	180	184
合計	275	261	275	348	275	251	825	860

### ■教職員数 (2025年5月1日現在)

#### (1) 学部・大学院

##### ①教員

(単位：人)

学部 大学院等の別	学長	専任教員	兼任教員	兼務教員		合計
				非常勤講師・客員教員		
基盤教育機構		28	36			71
商経学部		50	24			47
総合政策学部		27(3)	1			2
政策情報学部		-	18			19
サービス創造学部		18	7			7
人間社会学部		20	7			7
国際教養学部		10	2			6
商学研究科修士課程		8	1			31
政策研究科博士課程		-	-			6
会計ファイナンス研究科専門職学位課程		12	3			53
学長付		3	-			-
会計教育センター		3	3			-
合計	1	179(3)	102			249

##### ②職員

(単位：人)

専任	エルダー・契約・パート	合計
130	45	175

・( )内は基幹教員を内数で示す。  
・合計数531名に学長を含む。

#### (2) 付属高等学校

##### ①教員

(単位：人)

校長	教頭	教諭	常勤講師	専任講師	非常勤講師	合計
1	2	45(1)	2	3	14	67(1)

##### ②職員

(単位：人)

専任	エルダー・契約・パート	合計
5	5	10

・( )内は養護教諭を内数で示す。

# ガバナンス・内部統制

## Governance, Internal Control

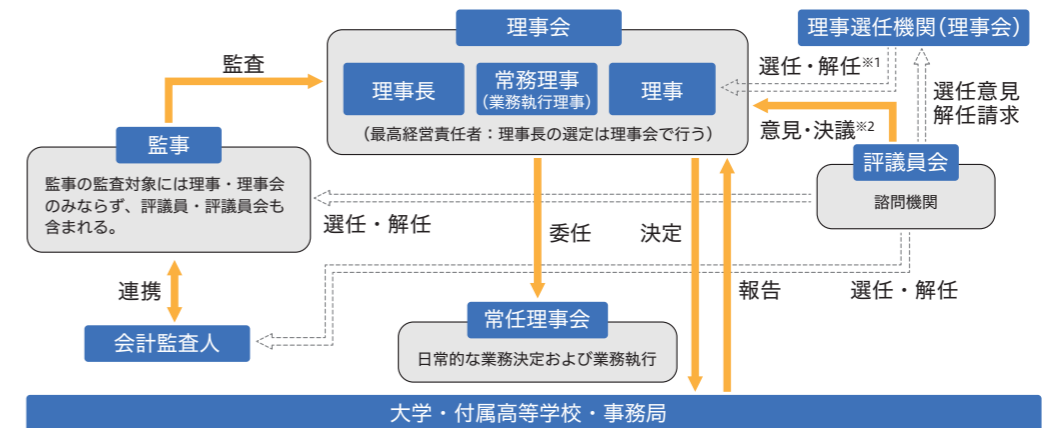
### ◆ガバナンスの基本的な考え方

本学園は、教育・研究活動を通じた社会的価値の創出と持続的な発展の実現に向け、透明性の高いガバナンス体制の構築を重要な経営基盤と位置付けています。本学園のガバナンスの特徴は、教育機関としての公共性と経営の効率性を両立させる点にあり、理事会を中心に外部有識者の意見を取り入れた意思決定と監督機能強化を図り、透明性と実効性の高い学校法人運営に取り組んでいます。

### ◆意思決定および監督の体制

理事会は、本学園の意思決定機関として法令および寄附行為に基づき、経営に関する重要事項の審議決定を行うとともに、業務執行の監督を担っています。また、監事、会計監査人および評議員会がそれぞれの立場から監督・牽制機能を果たすことでガバナンスの実効性を確保しています。あわせて、理事会からの委任を受けた常任理事会を設置し、日常的な業務の決定および執行を行っています。

### 学校法人千葉学園のガバナンス体制図



※1. 本学園では、理事選任機関は理事会とする旨、寄附行為に定めている。  
※2. 解散・合併・重要な寄附行為の変更には評議員会の決議が必要。

### ◆理事会における主な議論と意思決定【2025年度開催回数13回】

理事会は、理事（定数11人以上13人以内）および常勤監事から構成され、多角的な視点による議論を経て意思決定が行われています。重要案件については、評議員会での意見徴収および理事会のもとに設置された会議体における検討を経たうえで理事会に付議し、段階的かつ慎重な意思決定を行っています。これにより実効性の高い意思決定プロセスを確立しています。

理事会の審議結果は、評議員会や全教職員にも議事要録として共有しています。

### <理事会で重点的に議論を行った重要テーマ（2025年度実績）>

- ①財務基盤の強化：資産運用のあり方や支出構造の見直しについて検討し、中長期的な財務安定化に向けた方針を決定しました。
- ②教育改革：学部間連携の強化を中心に議論を行い、教育組織の再編を推進しています。
- ③内部統制：内部監査体制の強化および学園内諸規程の見直しを審議し、ガバナンスの実効性確保のため具体的な施策を決定しました。

### ◆評議員会の役割・牽制機能【2025年度開催回数6回】

評議員会は評議員（定数14人以上15人以内）と常勤監事で構成され、評議員には、教職員のほか卒業生、学識経験者など多様なメンバーが含まれています。理事会の諮問機関として法令、寄附行為に定められた重要事項を協議し、その意見を理事会に報告することで、学園のガバナンスにおける牽制機能と意思決定の質の向上に寄与しています。

ガバナンス・内部統制

◆監事等の役割・監査と連携の具体化

監事は、評議員会において選任され、独立した立場から法人の業務および財産の状況ならびに理事の職務の執行の状況について監査を行い、監査結果は理事会および評議員会に報告しています。

また、本学園では会計監査人を選任し、会計監査人は独立した立場から計算書類等について会計監査を行っています。

監事および会計監査人が適切に連携を図りながら、それぞれの専門性を生かした監査を実施し、定期的な情報共有および意見交換を行うことで、透明性と実効性の高い学校法人運営に寄与しています。

◆理事会の実効性向上に向けた取り組み

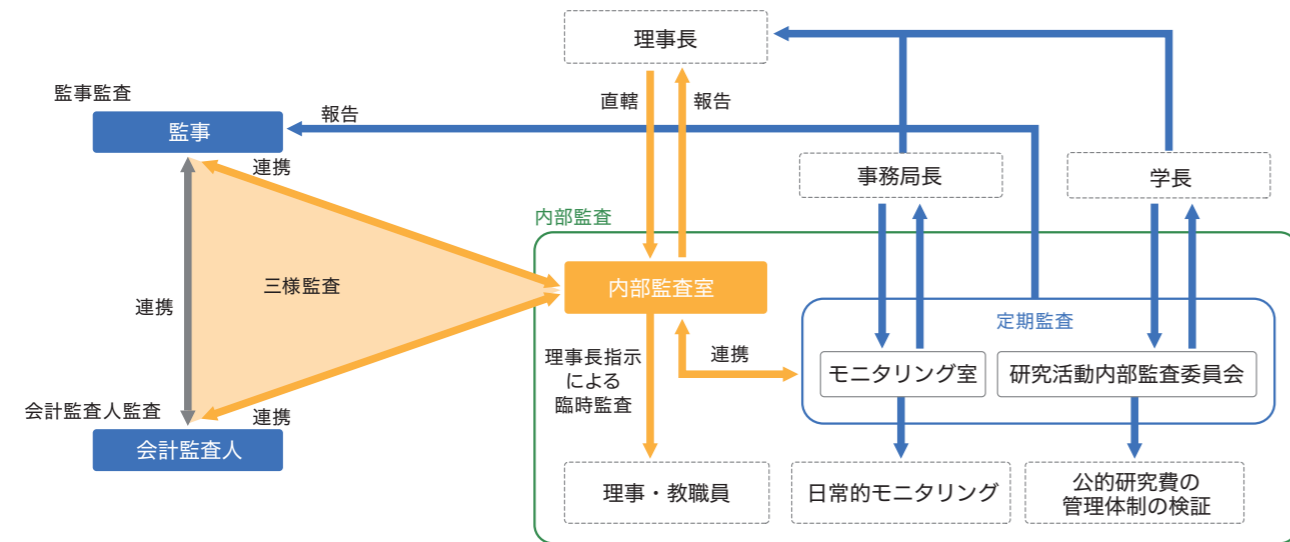
理事会の実効性を高めるため、理事・評議員・監事を対象に、情報提供や意見交換を目的とした懇談会等を開催しています。2025年度は、キャンパスランドデザインに基づくキャンパス整備計画や、学園の子会社等に関する勉強会を開催し、役員等が学園運営の現状や将来像について理解を深める機会としました。これらの継続的な取り組みを通じて、理事会における審議や意思決定の質の向上を図っています。

◆内部統制の基本的な考え方および監査体制

本学園では、適正な業務執行および法令遵守を確保するため、内部統制システムを整備し、その有効性の向上に努めています。内部統制は、不正や法令違反を防止するための仕組みにとどまらず、学校法人としての公共性を踏まえ、業務の適正性および効率性を確保するための重要な経営基盤であると位置付けています。

また、内部統制システム整備の一環として、理事長直下に内部監査室を設置し、モニタリング室や研究活動内部監査委員会などの内部統制活動を行う組織と連携し、内部監査を行っています。さらに、内部監査室を中心とする内部監査部門、監事、会計監査人とが相互に連携・協力する体制を整備することで、学園における監査の効率的な実施および内部統制システム整備に努めています。

学校法人千葉学園における監査体制図



<内部統制の運用と成果>

1. 事務局におけるモニタリング活動

本学園では、事務局長直下にモニタリング室を設置しています。モニタリング室では、経営目標達成のため、内部統制の基本的要素の観点から学園の諸業務および制度の運用状況が適正かつ妥当であるか検証・評価を行い、業務の有効性・効率性を高めることを主目的にモニタリング活動を行っています。これらの活動内容は監事へ報告しています。

2. 研究活動内部監査委員会の設置

公的性格を有する学術研究の信頼性と公平性を確保するため、研究活動内部監査委員会を設置し、研究費の管理体制について定期的な内部監査を実施しています。監査結果は監事にも報告しています。

上記1、2の取り組みにより、業務プロセスの可視化およびリスク管理の精度向上につながっています。

◆内部統制システムの運用整備状況の点検

・内部統制システム整備および運用状況の概要（事業報告書記載事項）

内部統制システムの整備および運用状況については、基本方針と実務との整合性を確認・点検し、その結果を評議員会に報告するとともに、理事会において必要な見直しを行っています。今後も、社会環境や法令改正を踏まえ、内部統制の継続的な改善に取り組んでいきます。

私立学校法施行規則第29条第2項第2号への対応

◇理事の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

・「理事が意思決定及び業務執行を行った場合又は職員が職務執行を行った場合における、当該行為に関する記録」への対応として、文書取扱規程の改正を進める。[2026年2月25日 理事会承認]

・「文書取扱規程」を廃止（2026年3月31日付）し、「学校法人千葉学園文書管理規程」を新規制定（2026年4月1日施行）する。[2026年3月25日 理事会承認]

◇職員の職務の執行が法令および寄附行為に適合することを確保するための体制

・既存の内部監査機能を整理し、内部監査を担う部門として、理事長のもとに内部監査室を設置（2026年4月1日）する。[2026年2月25日 理事会承認]

・内部監査室の設置を受けて、「学校法人千葉学園内部監査規程」を新規制定（2026年4月1日施行）する。[2026年3月25日 理事会承認]

・学校法人千葉学園内部統制システム整備の基本方針

詳細は、本学園のWebサイトをご参照ください。



◆コンプライアンス体制と実効性

役員および教職員の行動規範として「コンプライアンス行動規範」を定めるとともに、「公益通報者保護規程」および「コンプライアンス推進規程」に基づき、法令違反や不正行為等に関する通報・相談窓口を設置しています。通報者の保護を図るとともに、通報内容については適切な調査、是正措置をとり、再発防止につなげています。

◆役員報酬

役員報酬は、学園の持続的な発展および社会的責任の遂行を踏まえ、その者の職責、経歴、業務等を総合的に勘案し、役員等報酬検討委員会（教職員以外の評議員より構成）の答申を踏まえて理事長が決定しています。

なお、報酬水準については本学園のWebサイトを通じて情報公開を行い、透明性および客観性の確保に努めています。

◆内部質保証

大学を運営する学校法人として、教育機関としての使命・目的の実現に向けて、教育研究活動の状況について、自らの責任で点検・評価を行い、その結果を基にした自己改善により、恒常的かつ継続的に教育の質保証に取り組んでいます。また、教育・研究・学生支援の取り組みおよび体制について、中期経営計画に基づく点検・評価および改善を継続的に実施することで、教育機関としての質保証と経営の高度化を推進しています。

◆ガバナンスの点検および改善

本学園では、ガバナンス体制の適切性を確保するため、「日本私立大学協会 私立大学ガバナンス・コード<第2.0版>」に準拠し、同コードに対する遵守(実施)状況について自ら点検・評価を実施しています。点検結果は理事会で確認するとともに、評議員会にも報告し、改善につなげています。

学校法人千葉学園

# 役員・評議員一覧

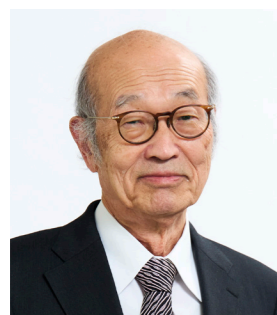
(2025年6月25日定時評議員会終結の時現在)

## Directors, Officers

学校法人のガバナンスの中核を担う役員・評議員について、各人が寄せた本学園の魅力や印象的な場面等とともに紹介します。

※本学園寄附行為に基づき、理事(★印)及び監事の学校法人千葉学園に対する損害賠償責任の限定について定めた契約を締結している。  
 ※理事および監事は2025年度役員賠償責任保険(D&O保険)の1-Bタイプ(保険期間中支払限度額15億円)に加入している。

### 理事長



選任区分: 学識経験者  
**内田 茂男**  
 千葉商科大学 名誉教授  
 元 日本経済新聞社論説委員長

学生・生徒・教職員が一体となり、笑顔と活気に満ちた「明るい学園」が魅力です。

### 常務理事(業務執行理事)



選任区分: 学識経験者  
**瀧上 信光**  
 千葉商科大学 名誉教授  
 元 総務庁 行政管理局長

本学の教育・地域活性化・防災等のさまざまな取り組みは、地域の大学としての責任を果たしているとして高く評価されています。

### 理事



選任区分: 学長・校長  
**宮崎 緑**  
 学長

100年の伝統と進取の気性。



選任区分: 学長・校長  
**高井 宏章**  
 校長

学食、食堂が美味しい。



選任区分: 法人職員  
**磯山 友幸**  
 理事長特別補佐  
 総合政策学部教授  
 統括学長補佐

18歳人口減少を控え『連続改革』に磨きをかける姿勢が素晴らしいです。教職員一丸で成長をめざしましょう。



選任区分: 法人職員  
**今井 重男**  
 総合政策学部長・政策情報学部長・教授・学長補佐

和衷協同でことにあたる。



選任区分: 法人職員  
**東海林 真巳**  
 法人本部長

静寂で緑豊かなキャンパスと学生の熱気とのコントラストが魅力です。



選任区分: 法人職員  
**露崎 洋**  
 事務局長

学生・生徒の皆さんが「入学して本当によかった」と満足してもらえる学園となるよう、日々努力していきます。



選任区分: 法人職員  
**出水 淳**  
 大学本部長

ニコニコしていて、人懐っこくて、前向きな学生さんがたくさんいるところがイイと思います。



選任区分: 法人職員  
**橋本 隆子**  
 商経学部長・教授  
 学長補佐

学生一人ひとりが成長する姿を身近で感じられるところ。



選任区分: 卒業生  
**高橋 伸治 (★)**  
 千葉商科大学 同窓会長  
 株式会社協栄 相談役

教員と学生の距離の近さに千葉商科大学の素晴らしさを感じています。



選任区分: 学識経験者  
**千葉 光行 (★)**  
 認定NPO法人健康都市活動支援機構 理事長

未来に輝く千葉学園。



選任区分: 学識経験者  
**花田 力 (★)**  
 京成電鉄株式会社 名誉相談役

教職員と学生が積み重ねてきた努力で、大学全体のレベルが高まり、社会の評価向上を実感しています。

### 監事



**関川 正**  
 関川正公認会計士事務所 代表

100年近い歴史と伝統を誇る一方、常に新しいことに挑戦し続ける大学です。



**林 一義**  
 元学校法人愛知大学監事  
 元一橋大学事務局長・学長補佐

大学改革等の取組状況はトップクラスです。学生目線で引き続き改革が推進されるよう意見具申していきます。

### 評議員



選任区分: 法人職員  
**大場 克美**  
 大学副本部長  
 付属高等学校事務長

付属高校生の元気な挨拶と商大生の素直さが印象的で、接していてとても気持ちが良いです。



選任区分: 法人職員  
**趙 珍姫**  
 大学院会計ファイナンス研究科長・教授

学修環境で深まる世代を超えた絆。



選任区分: 法人職員  
**中村 順一**  
 教頭・教諭

高大7年連続カリキュラムにより早期から専門知識を学び、サステナブルなライフプランを描く人材育成を実施しています。



選任区分: 法人職員  
**西尾 淳**  
 サービス創造学部教授

「治道家の育成」を根幹に教職員が誠心誠意取り組み、学生が伸び伸びと成長している姿が印象的です。



選任区分: 卒業生  
**木澤 浩三**  
 株式会社サンエンジニアリング 代表取締役

日本初の「RE100大学」サステナビリティの本気度。



選任区分: 卒業生  
**根本 妃美子**  
 株式会社暁恒産 代表取締役社長

太陽の光注ぐキャンパスに学生が集い、地域や未来を担う子どもたちも参加できる企画が豊富で笑顔あふれる学園です。



選任区分: 卒業生  
**松田 辰夫**  
 株式会社千葉信興 代表取締役

都心に近く、かつ緑豊かなキャンパスで学生が活き活きと過ごし、地域貢献がメディアに取り上げられ誇らしいです。



選任区分: 学識経験者  
**安藤 昭**  
 富士屋ホテル株式会社 代表取締役社長

家族的な雰囲気と実学重視の教育で会計士等の資格取得に実績があります。緑豊かなキャンパスも魅力です。



選任区分: 学識経験者  
**梶間 栄一**  
 梶間公認会計士事務所 代表

充実した学修環境が整う大学、生徒の成長が見える高校。整理整頓、清掃も素晴らしいキャンパスです。



選任区分: 学識経験者  
**杉原 明**  
 日本私立大学協会調査役出向(学校法人工学院大学 総務・人事部付部長)

参加した会議では発言しやすい雰囲気のもと活発な議論が行われており、学園の発展への意気込みが感じられます。



選任区分: 学識経験者  
**田平 和精**  
 株式会社市川ビル 代表取締役社長

社会人向けの公開講座等が実施され、私自身も経営の基本を学び、会社経営で実践しています。まさに第2の母校です。



選任区分: 学識経験者  
**早川 政美**  
 公益財団法人橋杵子記念財団 理事

地域貢献やSDGsを意識した学生の取り組みはOBとして誇らしく、たくましさを感じました。



選任区分: 学識経験者  
**福田 舞**  
 卓照総合法律事務所 弁護士

実学重視のカリキュラムと緑豊かなキャンパス、開放的な学生食堂が学生の想像力を培っています。



選任区分: 学識経験者  
**森山 育子**  
 一般社団法人墨田区観光協会 理事長

就活に悩み相談に来てくれた学生のご心が残っています。学生生活で培われた前向きな姿勢が素敵でした。


### 会計監査人

### 新創監査法人

# 財務情報

## Financial Information

財務情報  
本学園のWebサイトを参照ください。



### 100年後も社会が必要とする大学であり続けるために

2025年度は第3期中期経営計画の2年目となります。経営方針に基づく3つの経営目標 ①未来志向の実学・実践教育 ②安定的かつ強固な経営基盤の確立 ③社会が必要とする学園を実現するために財務的な局面からは「事業活動収支計算書」において、経常収支差額比率6%を達成するという目標を掲げています。

経常収支は学費を中心とした教育活動に関わる収入と、人件費や教育研究活動等の支出に加え、受取利息配当金に代表される経常的な財務活動、収益事業としてのCUCメガソーラー野田発電所からの繰入金収入等も含まれます。

学校法人は営利を目的とする存在ではありませんが、教育研究活動を高いレベルで支援すると共に、今後の持続的な発展のために一定の余剰も確保する必要があります。

千葉学園では2024年度に策定されたキャンパスブランドデザインに基づき、創立100周年とその先を見据え、学修環境のより一層の充実を図るキャンパス整備を実現するため、財務計画の策定を進めており、経常的な収益を確保すると共に、金融資産運用等によって必要な財源を確保するための取り組みが行われています。

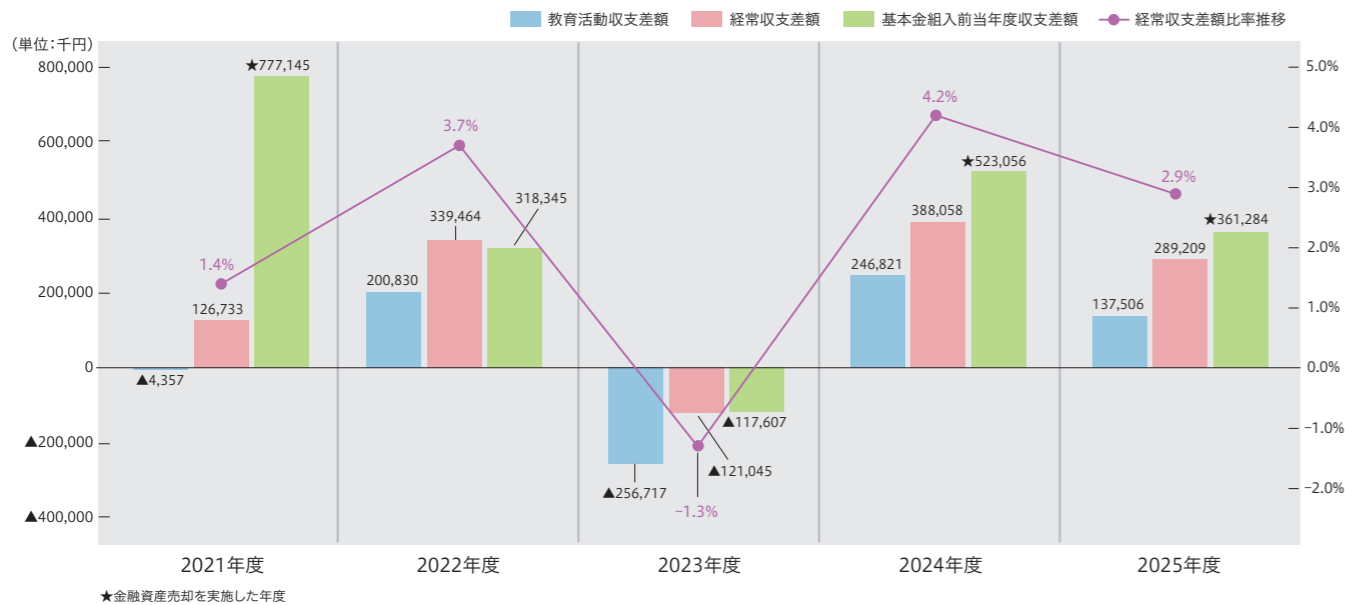
なお、2025年度決算においては、財務報告の枠組みが大きく変更されました。これは、2025年度4月施行の私立学校法及び学校法人会計基準の改正によるものです。

本改正では、私立学校法に基づく情報公開を主眼とした作成体系へと移行しました。この変更により、財務情報の透明性および説明責任が一層強化されています。

また、教職員の賞与引当金の計上が必要となり、学校法人千葉学園において、賞与算定期間の見直しを実施した影響もあり、経常収支差額比率は財務目標6%に対し、2.9%と、前年4.2%を下回ったものの、本業である教育活動収支差額と経常収支差額、および基本金組入前当年度収支差額は全て安定した黒字を確保しました。

全学部定員割れの中、開始された第1期中期経営計画(2014年～2018年度)では、赤字構造からの脱却が最優先課題事項でしたが、2期以降は、安定した収支構造になっています。2023年度は付属高等学校の新校舎建設に伴う解体費用として約2億8,000万円を計上したため、収支差額がマイナスとなりましたが、当年度以外は経常収支差額がプラスになっています。

### 各収支差額と経常収支差額比率の推移



### I 2025年度事業活動収支計算書の概況

#### 2年連続収支差額がプラスに

2025年度決算は、本業である教育活動収支差額が1億3,750万円、教育活動外を含めた経常収支差額が2億8,920万円と、いずれも黒字となり2年連続の安定した結果となりました。

収入面の8割以上を占める学費については、まず大学学部において、入学者の定員充足率が前年度108.8%から116.3%に上昇したことに加え、大学学費改定2年目の効果もあり、増加に寄与しました。

さらに、大学院においても会計ファイナンス分野を中心に入学者が好調に推移したことから、全体として前年度比1億5,634万円の増加となりました。

経常費等補助金は17億8,225万円となり、前年度から大幅な増額となりました。これは、主として高等教育修学支援新制度の拡充に伴い対象者が増加し、約5億円の増額となったことによるものです。

加えて、前年度惜しくも不採択となった競争的補助金のタイプ1『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開が採択されたこと、ならびにタイプ3「地域社会の発展への貢献(プラットフォーム型)」が7年連続で採択されたことも寄与しています。

寄付金について、千葉商科大学創立100周年事業の一環として今年度より「CUC未来募金」の募集を開始し、幅広く寄付を募った結果、5,000万円を超えるご支援をいただきました。

また、売電事業を主とするCUCメガソーラー野田発電所の収益事業では、売電収入が好調であったことから、繰入金として7,000万円を計上しました。

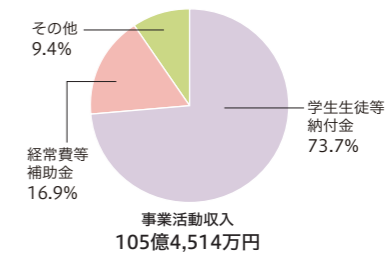
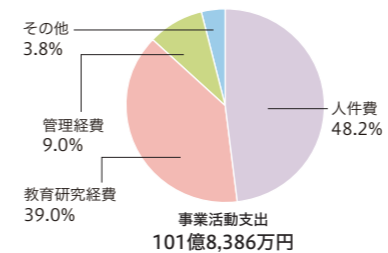
その他、特別収入として、資金運用におけるポートフォリオの見直しの一環として一部資産を売却し、4億1,496万円の売却益を計上しました。

これらの結果、事業活動収入が初めて100億円を超える規模となりました。

支出面については、賞与引当金繰入額として人件費に5億5,752万円を、特別支出に3億4,988万円を計上しました。また、学修を支援するために使用される奨学費は、国の制度による高等教育修学支援額が大半を占めるものの、第3期中期経営計画の「多文化協働による人的資本育成」の一環として54名の留学生を受け入れ、本学独自の支援制度である私費留学生減免額が増加しました。

事業活動収支計算書 2025年4月1日から2026年3月31日まで

事業活動支出の部		事業活動収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	4,911,957	学生生徒等納付金	7,773,224
うち賞与引当金繰入額	557,528	手数料	150,527
教育研究経費	3,972,761	寄付金	57,427
管理経費	918,811	経常費等補助金	1,782,254
教育活動支出計	9,803,528	付随事業収入	32,819
借入金等利息	24,216	雑収入	144,784
教育活動外支出計	24,216	教育活動収入計	9,941,035
資産処分差額	6,239	受取利息・配当金	105,918
賞与引当金特別繰入額	349,881	収益事業収入	70,000
特別支出計	356,120	教育活動外収入計	175,918
事業活動支出計	10,183,864	資産売却差額	414,966
基本金組入前当年度収支差額	361,285	その他の特別収入	13,229
基本金組入額	△328,445	特別収入計	428,195
当年度収支差額	32,840	事業活動収入計	10,545,149
前年度繰越収支差額	△7,374,921		
翌年度繰越収支差額	△7,342,081		



教育活動収支差額：137,507千円  
経常収支差額：289,209千円

## II 金融資産運用について

### 学園の永続的な発展のための資産運用

千葉学園では、①将来の校舎や教育設備の充実、②学生生徒に対する奨学金の原資や教育研究経費への充当、③教職員の退職金への充当を目的に資産運用を行っています。

2024年度より財務基盤強化を目指し、運用資産の基本

ポートフォリオの見直しを進めています。2025年度にはインフラストラクチャーへの投資を開始しました。

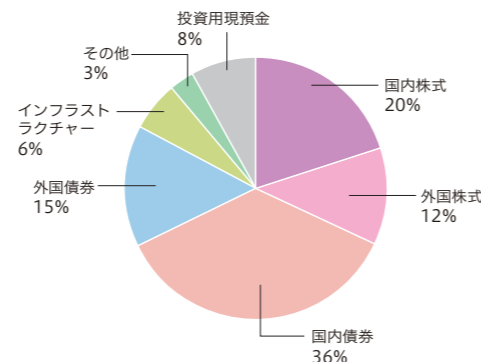
2025年度末時点の運用資産は簿価基準で184億円です。うち167億円を投資信託・債券・株式で保有しており、評価益は28億円でした。

#### 有価証券別内訳表

(単位：千円)

種類	2026年3月31日		
	貸借対照表計上額	時価	差額
投資信託	8,548,414	9,863,135	1,314,721
債券	6,903,098	6,575,971	△ 327,127
株式	763,162	2,594,777	1,831,615
その他	500,000	500,000	0
合計	16,714,675	19,533,884	2,819,209
時価のない有価証券	10,000	株式会社CUCサポート	
有価証券合計	16,714,675		

#### 投資目的金融資産別の時価評価割合



## III 学校法人出資による会社

### 千葉学園の事業運営を支えるパートナー

(株)CUCサポートは、学校法人千葉学園の出資により運営されている事業法人で、警備・清掃・施設管理を中心とした学園の施設総合管理、学内の印刷物制作を行うドキュメントセンター、調達・集中購買事業等を行い、千葉商科大学および附属高等学校の教育研究活動を支援しています。またCUCオリジナルグッズの開発・販売にも取り組む他、2019年1月にスタートした「CUC100ワイン・プロジェクト」では、大学創立100周年に向けた国府台産ワイン開発のため、千葉商科大学の学生の支援を行う事業も展開しています。

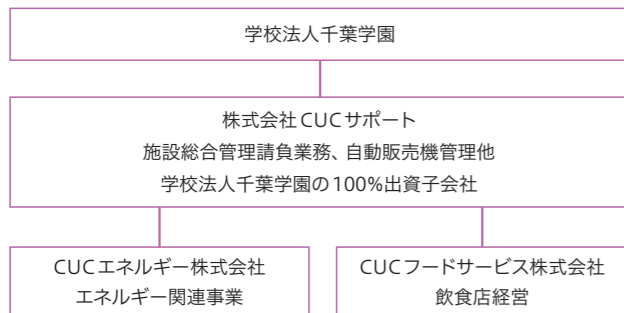
(株)CUCサポートが87%を出資しているCUCエネルギー(株)は、千葉商科大学発のエネルギー会社として、市

川キャンパスへの屋上太陽光発電設備の設置の他、2024年4月には千葉市緑区大木戸において、ソーラーシェアリング事業を展開。当社が発電事業者として電力会社を通じ、千葉商科大学に売電しています。農地では、さつまいも栽培を手掛け、地域住民による苗植えや収穫を主催し、また酒造会社と提携して、栽培されたさつまいも焼酎の製造・販売にも取り組んでいます。

CUCフードサービス(株)は、(株)CUCサポートが90%を出資して運営している事業体で、千葉商科大学正門近くで中華料理店を運営しており、学生はもとより地域住民の皆様にも愛されている町中華です。



千葉商科大学 大木戸ソーラー発電所でのさつまいも収穫の様子



株式会社 CUC サポートが 87% 出資 株式会社 CUC サポートが 90% 出資

## IV 財務比率の経年推移 (2021 ~ 2025年度)

### (1) 貸借対照表関係

比率	算式	評価 (※1)	千葉学園					大学法人平均 (※2)
			2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2024年度
固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	▼	91.3	91.4	91.0	90.7	90.5	86.1
特定資産構成比率	$\frac{\text{特定資産}}{\text{総資産}}$	△	36.9	36.5	34.7	35.6	37.2	23.7
内部留保資産比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{総負債}}{\text{総資産}}$	△	28.4	27.3	27.5	29.7	30.9	28.5
純資産構成比率	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△	83.1	82.6	84.6	85.3	84.9	88.4
繰越収支差額構成比率	$\frac{\text{繰越収支差額}}{\text{総負債} + \text{純資産}}$	△	△ 10.3	△ 10.6	△ 14.9	△ 15.1	△ 14.8	△ 17.8
固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{純資産}}$	▼	109.9	110.6	107.6	106.3	106.5	97.4
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	△	151.2	129.8	169.2	183.7	162.3	265.6
負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	▼	20.4	21.1	18.2	17.3	17.7	13.1
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	△	92.4	89.6	80.9	81.8	83.2	74.9

※1. △ 高い値が良い ▼ 低い値が良い - どちらともいえない  
 ※2. 医歯系法人を除く数値。(今日の私学財政 日本私立学校振興・共済事業団発行より)  
 ※3. 総資産 = 負債 + 基本金 + 繰越収支差額

### (2) 事業活動収支計算書関係

比率	算式	評価 (※1)	千葉学園					大学法人平均 (※2)
			2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2024年度
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	▼	50.3	50.3	50.7	48.3	48.6	50.9
人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	63.3	62.6	63.7	59.2	63.2	70.7
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	△	37.5	37.7	40.2	37.4	39.3	37.3
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	▼	10.6	8.1	10.1	9.8	9.1	8.9
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	-	79.5	80.3	79.6	81.6	76.8	72.0
寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	△	0.4	0.6	0.5	0.4	0.7	2.0
補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	△	14.3	13.8	12.9	13.3	16.9	15.0
教育活動収支差額比率	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-	△ 0.1	2.2	△ 2.8	2.7	1.4	0.3
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-	1.4	3.7	△ 1.3	4.2	2.9	2.7
基本金組入後収支比率	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入} - \text{基本金組入額}}$	▼	95.6	102.5	125.9	101.5	99.7	107.4

※1. △ 高い値が良い ▼ 低い値が良い - どちらともいえない  
 ※2. 医歯系法人を除く数値。(今日の私学財政 日本私立学校振興・共済事業団発行より)

# 寄付金事業

## Donations

2025年度より千葉商科大学は「創立100周年CUC未来募金」を開始しました。100年の伝統を守り、さらなる学生の成長と発展を支えるため、未来を担う学生たちのチャレンジを応援する寄付メニューを用意しています。皆さまからのご支援、ご協力をお願いします。

ご寄付のお願い  
皆さまからのご支援を  
お待ちしております。



### 2025年度 寄付実績

# 総額: 70,656,173円 (現物寄付を含む)

#### [主な寄付メニューの実績]

##### 千葉商科大学 創立100周年CUC未来募金

教育・研究活動を応援する	30,033,010円
キャンパス整備を応援する	7,797,001円
高度会計人材の育成と瑞穂会を応援する	1,071,000円
【CUC サポート募金】海外留学支援	925,000円
【CUC サポート募金】課外活動支援(部活動・団体)	993,000円

##### 千葉商科大学附属高校 柏葉募金

校友会を支援する	820,000円
特色のある教育を支援する	350,000円
教育環境整備を支援する	10,625,000円
生徒のチャレンジ全般を支援する	85,500円

※創立100周年CUC未来募金開始前にご寄付いただいた金額を含む。

### ■千葉商科大学 創立100周年 CUC 未来募金

学生のチャレンジを応援し成長と発展を支えるため、5つのメニューを用意しています。



教育・研究活動を応援する



キャンパス整備を応援する



高度会計人材の育成と  
瑞穂会を応援する



【CUC サポート募金】  
・海外留学支援  
・課外活動支援(部活動・団体)

### ■千葉商科大学附属高校 柏葉募金

生徒のチャレンジを応援し、成長と発展を支えるため、4つのメニューを用意しています。



校友会を支援する



特色のある教育を支援する



教育環境整備を支援する



生徒のチャレンジ全般を支援する

### ■2025年度使途報告

#### 学生の海外留学支援

語学研修奨学金

## 200,000円

(100,000円×2名)

このたびは、CUCサポーターズ募金にご寄付いただき、ありがとうございました。皆さまからの温かいご支援のおかげで語学研修に参加することができ、多くの学びと成長の機会を得ることができました。韓国の学生やメンターとの交流を通じ、語学だけでなく文化や価値観の違いを理解する力を養うことができました。この経験を今後の人生に生かし、支えてくださった方々への感謝を忘れずに努力していきたいと思っております。  
(商経学部商学科 田中 佑奈)



#### 学生の課外活動支援

女子軟式野球部  
練習用品各種の購入

## 130,018円

備品不足により効率的な練習が難しく、安全面にも不安がある状況でしたが、カートやバッティングネット、テーピングなどを整えることができました。これにより準備時間の短縮や安全面の改善にもつながり、個々の技術力向上にも役立っています。これからも応援してくださる方への感謝の気持ちを忘れず、部員一同、より良い活動を続けていきます。  
(女子軟式野球部 主将 穂積 佐奈)



サッカー部  
三脚セット購入

## 77,000円

これまでは全体を見渡せない角度の映像で分析していましたが、寄付を活用し高所撮影用三脚を購入したことで、上からチーム全体の動きを捉えられる映像が撮影できるようになり、映像分析の質が向上しました。多くの方の支援に感謝し、これからも活動を続けていきます。今後ともご支援・ご声援をお願いいたします。  
(サッカー部 主将 岡嶋 優太郎)



### ■寄付者の声



新聞広告に掲載されていた千葉商科大学が100年にわたり「治道家」を育成してきたという理念に感銘を受け、寄付を決意しました。私は20歳前後から陽明学を学び、それを自身の哲学としてきました。その陽明学と、千葉商科大学の教育理念である「治道家」には通じるものがあり、今こそ「治道家」が求められているという大学からのメッセージに深く共感しました。学生の皆さんには、失敗を恐れることなく、志をもって自らの夢や希望に向かって努力を重ねてほしいと願っています。その後押しとなるよう、今後も支援を続けていきたいと考えています。

株式会社カネシ商事 会長  
堀江 昇様 (昭和39年 商経学部商学科卒業)

寄付をお寄せいただいた  
方からのメッセージ

- ・より良い学びができる環境の為に活用していただければと思います。
- ・これからもどうぞ生徒たちと寄り添いあう学園でいてください。
- ・地元千葉県に寄り沿った教育に期待します。
- ・今後も多くの会計人の育成に期待しております。

### 千葉商科大学・附属高校プレゼント付寄付

## Pick Up!

「千葉商科大学・附属高校プレゼント付寄付」では、学生が開発したオリジナル商品やCUCアライアンス企業商品をはじめ、全国のグルメ・スイーツや人気のインテリア雑貨などを用意しました。ご寄付の金額に応じてギフトをお選びいただけます。

<p>学生開発商品</p> <p>千葉県産素材のドレッシング</p>	<p>学生開発商品</p> <p>大木戸さつまももジェラート</p>	<p>CUCアライアンス企業商品</p> <p>なごみの米屋 千葉めぐり 3種12個詰</p>	<p>CUCアライアンス企業商品</p> <p>人形町今半 黒毛和牛 肉丼の具 (5パック入)</p>
------------------------------------	------------------------------------	---	---

学校法人千葉学園  
千葉商科大学／  
千葉商科大学附属高等学校

〒272-8512 千葉県市川市国府台1-3-1  
TEL 047-372-4111(代表)



<https://www.cuc.ac.jp/>

発行：2026.6